

鶴見緑地及び他 11 施設 指定管理業務
事業報告書
(令和 2 ～ 5 年度)

令和 6 年 11 月 提出

鶴見緑地スマイルパートナーズ

目次

- 1 指定管理者の概要
 - 1－1 指定管理者の概要
 - 1－2 組織体制
 - 1－3 施設利用状況
- 2 公園管理運営状況
 - 2－1 植栽の管理
 - 2－1－1 一般園地
 - 2－1－2 咲くやこの花館
 - 2－2 施設の管理
 - 2－3 利用促進
 - 2－3－1 公園全体及び一般園地
 - 2－3－2 有料施設
 - 2－4 安全管理
 - 2－4－1 公園全体及び一般園地
 - 2－4－2 有料施設
 - 2－5 人材等の適正配置
 - 2－6 市民等との協働・連携
 - 2－7 施設間の相互連携
 - 2－8 利用者の意見反映
- 3 スポーツ施設管理運営状況
 - 3－1 施設の管理
 - 3－2 利用促進
 - 3－3 安全管理
 - 3－4 人材等の適正配置
 - 3－5 市民等との協働・連携
 - 3－6 施設間の相互連携
 - 3－7 利用者の意見反映
- 4 魅力向上事業実施状況
 - 4－1 既存施設の魅力向上及び利活用
 - 4－1－1 咲くやこの花館
 - 4－1－2 その他一般園地エリア
 - 4－1－3 スポーツ施設
 - 4－2 新たな公園施設の設置及び管理運営
 - 4－2－1 収益施設の設置及び管理運営

- 4-2-2 その他施設の設置及び管理運営
- 4-3 新たな賑わいづくり
 - 4-3-1 新たな賑わいを創出するイベントの実施
 - 4-3-2 新たな賑わいを創出するその他ソフト事業等
- 4-4 事業計画の達成度
- 4-5 収益の再投資

- 5 収支状況
 - 5-1 収支内訳
 - 5-2 収支計画からの増減理由
 - 5-3 管理経費縮減の取組み

- 6 社会的責任・市の施策との整合
 - 6-1 環境保全
 - 6-2 就職困難者雇用
 - 6-3 個人情報等の取組み
 - 6-4 職員研修等

- 7 第1期の総括及び自己評価

- 8 第2期に向けた課題と目標

- 9 その他特記事項

- 10 別紙

1 指定管理者の概要

1－1 指定管理者の概要

(1)施設概要

鶴見緑地（一般園地）、咲くやこの花館、陳列館ホール、水の館ホール、茶室むらさき亭
鶴見緑地馬場（乗馬苑）、鶴見緑地パークゴルフ場、鶴見緑地球技場、鶴見緑地庭球場、鶴見緑地
運動場、鶴見スポーツセンター、鶴見緑地プール

(2)指定管理者

団体名称 鶴見緑地スマイルパートナーズ

代表者 大阪市中央区北浜東 4 番 33 号
大和リース株式会社
大阪本店 本店長 堀 越 良 一

構成員 大阪市港区田中三丁目 1 番 40 号
一般財団法人大阪スポーツみどり財団
理事長 山 本 功 人

大阪市中央区北浜四丁目 1 番23号
美津濃株式会社
代表取締役社長 水 野 明 人

大阪市西区北堀江二丁目 1 番11号久我ビル北館5階
株式会社ウエルネスサプライ
代表取締役 薄 井 修 司

愛知県豊田市勘八町勘八272番地
有限会社エルミオーレ
代表取締役 桑 原 広之進

大阪市北区天満橋一丁目8番30号
三菱電機ビルソリューションズ株式会社 関西支社
取締役 関西支社長 向 山 達 也

1－2 組織体制

鶴見緑地スマイルパートナーズ

団体名	役割
【代表団体】 大和リース(株)大阪本店	公園全体のマネジメント、大阪市との連絡調整、 鶴見緑地（一般園地）の管理運営
【構成員】 (一財)大阪スポーツみどり財団	咲くやこの花館の管理運営
美津濃(株)	鶴見緑地パークゴルフ場、鶴見緑地球技場、鶴見緑地 庭球場、鶴見緑地運動場、鶴見スポーツセンター、鶴 見緑地プールの管理運営
(株)ウエルネスサプライ	ホール・茶室管理運営、スポーツ施設受付業務 スポーツ教室の運営 等
(有)エルミオーレ	鶴見緑地馬場（乗馬苑）の管理運営
三菱電機ビルソリューションズ(株)関西支社	電気・機械設備等の維持管理、法定点検
大和ライフネクスト(株)	清掃・警備・設備日常点検

1－3 施設利用状況

※別紙「成果指標にかかる数値目標の達成状況」参照

2 公園管理運営状況

維持管理方針並びに各施設の維持管理業務仕様書に基づき、植栽、施設、園地及びその他管理対象物の特性に応じた業務を行うほか、園内各所・各施設の特性を踏まえ、その魅力が最大限発揮されるよう方針を立て、PDCA サイクルによるマネジメントを行った。

2-1 植栽の管理

2-1-1 一般園地

仕様書に基づき適切に管理を行いながらも、毎年変化する気象状況に合わせて仕様書以上の除草や剪定を行うなど柔軟に管理を行った。植え付けから 30 年以上経過している樹木・草花が大半のため、枯損木として処理する時期を適切に見定めつつ、改善の余地があるものについては土壌改良などの環境改善により魅力の向上を図ってきた。合わせて現在のトレンドを押さえた景観そのものの改善や、時間はかかったものの勝手花壇の是正など公園利用の適正化と合わせて多方面から管理水準の向上に努めた。

【主な取り組み事項】

- 来園者の利用頻度が高い大芝生の除草回数を仕様書で定める 5 回/年から 8 回/年に増やし来園者満足度の向上を図った。
- 園内通行の主動線であるくすのき通の除草回数を仕様書で定める 3 回/年から 5 回/年に増やし来園者満足度の向上を図った。
- アーモンドの森において枯損原因を調査。粘土層による排水能力を改善するため、乗馬苑と連携して馬糞による堆肥を作製・漉き込みを行うことで排水環境を改善した。
- 大花壇において 12 月から 2 月までの冬季も花を観賞できるようビオラを植え付け、冬季における来園者増加を図った。
- 鶴見区役所や黒田緑化事業団と寄付樹木植栽の連携・受け入れや技術的な助言を行った。
- 園内バスの沿路の除草回数を仕様書の 3 回/年から 4 回/年に増やし来園者満足度の向上を図った。
- 除草時の飛び石リスク低減のため、隣地境界付近に防草シートを敷設した。常駐植栽業者職長による随時点検及び随時の枯枝除去作業を実施。
- 大花壇南端で景観を阻害していたハイバクシン植栽帯を移植・大花壇を拡張し、大花壇における花の景観を向上させた。



- 大芝生の土が見えている部分に芝を植え付け、大芝生の再生に取り組んだ。大芝生の利用を継続しながら長期的に再生していくため、今後も継続して注視していく。



【その他各年度における特記事項】

<令和2年度>

- バラ園の経年劣化による既存バラ株の枯死枯損、品種の減少を改善するため、著名なバラ専門家と連携し補植計画を立て、29品種270株の補植を実施した。
- バラ園の補植に合わせてモッコウバラドームのリニューアル塗装を実施した。

<令和3年度>

- 剪定時期変更に伴い実ったウメの実を収穫し、チャリティー販売を実施した。集まったお金はすべて新型コロナウイルス対策金として日本赤十字社へ寄付した。
- バラ園南側斜面地にヒマワリ6,000株とネモフィラ6,000株を植え付け、新たな花の見どころを創造した。

<令和4年度>

- 園内の桜等樹木約700本にエアースコップ・馬糞堆肥による土壌改良を実施した。
- バラ園へ、乗馬苑と連携し直営生産した馬糞堆肥のマルチングを実施。防草、土壌改良、目減りした土壌の補充等多角的な効果を得られた。
- 風車の丘、風車下の未活用地にミュレンベルギア・寒咲きナノハナを植え付け景観向上に努めた。

<令和5年度>

- 鶴見新山付近の勝手花壇実施者と協議の上撤去に至った。
- 北西駐車場周辺の勝手花壇実施者と協議の上撤去に至った。

2-1-2 咲くやこの花館

維持管理方針ならびに維持管理業務仕様書を順守し、質の高い維持水準を保てるように努め、来園者が快適かつ安全に過ごせるような憩いの空間とするとともに、植物の収集、保存、展示に努め植物・園芸についての知識の普及や社会教育、環境保全や自然保護を推進する施設としての場を提供した。

また、近畿各地をはじめ全国の植物園・大学・企業・自然保護団体等の関係先の協力により、兵庫県姫路市産の野生サギソウ、国内では奄美大島のみに産するサガリランなどの希少植物を分譲され、貴重な遺伝資源である植物のコレクションを充実させた。他にもヤシャビシヤクやイトラッキョウなど、環境省・各都道府県のレッドリストに掲載されている植物の収集・栽培保存を続けることで貴重

植物の域外保全の取り組みに協力するとともに、生物多様性の保全に係る普及啓発などを進めていく。

【主な取り組み事項】

- 他植物園にない特徴として、毎日、開花および結実した植物の展示入れ替えを行い、訪れる度に異なった花や景観が楽しめるように努めた。
- きめ細かな除草、枯葉・枯れ枝処理、凋花、灌水、整枝を行い定期的に剪定、刈込、芝刈り、必要に応じて適宜薬剤散布や施肥・植替えなどを欠かさず行い高いクオリティを維持した。
- 開花株の購入に頼らない運営を心掛け、特に原種ランはウィルス感染対策の徹底と適切な栽培技術によって直営での栽培による安定した展示を行い、熱帯雨林室の品質向上による来館者の満足度向上を図った。
- 都市循環の取り組みとして、天王寺動物園の動物の糞から作ったサバンナ堆肥を活用し、プチングリッシュガーデンへ施肥を行った。
- 熱帯花木室の土壌改良によりバナナ展示エリアの開花・実付き状況が改善し、展示室としての魅力が向上した。
- ナツメグやハワイ固有種であるヒビスクス属などの系統保存のため、挿し木、取り木、接木、株分、播種を計画的に行い、貴重な種の保存を実現している。
- 月下美人のような夜咲きサボテンの昼夜逆転開花や、高山植物、山野草などの適切な開花調整により、本来花の咲かない時期にも開花させることで、来館者の満足度向上に努めた。
- トックリキワタ、カカオ、ロウソクノキ他、受粉作業を行い結実させて安定した展示を行った。
- タビビトノキやヘゴ、タコノキなど施設の天井に達する可能性のある巨木の伐採および更新計画を立て、次世代の個体の育成と補植を行った。
- メコノプシス属（青いケシ）の栽培について、花博当時から購入していた生産者が近年の気候変動により生産を中止したため、種子から栽培に取り組んだ。また他の植物園とも連携しながら栽培技術向上に努めた。安定供給はまだ実現できていないが、順調に生育しているため今後も継続的な技術向上を図る。
- トックリキワタに病気の兆候が見られたため、学術機関である大阪公立大学農学部と森林総合研究所へ調査を依頼し、サンプル分析や処置指導を受け適切に対応した。
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」に基づき、任意放棄され取得した植物寄託された植物の保護育成を行っている。



<令和2年度>

- 館内で春から秋にかけ展示していたハス、スイレン、水生植物 200 種を早朝でも観賞できるよう屋外の池へ展示を変更し、以降マスコミの関心を集め毎年取材を受け付けている。
- 役立つ植物広場にタピオカの原料であるキャッサバを植栽展示し、有用植物の展示の充実を図った。
- 自然史博物館で開催の特別展「植物 地球を支える仲間たち」（大阪展）展示協力として希少植物

のキソウテンガイの生体展示を行い、植物の多様性を館外でも広くPRした。



- 夏休み期間中にアリ植物の特別展示を実施し、植物とアリとの興味深い共生関係を紹介し、来館者の関心を集めた。
- 展示植物の充実のため、熱川バナナワニ園からオオオニバスを導入するなど、他の植物園と連携した展開により展示物の拡充を図った。
- 樹木ラベルを外周エリアおよび外部庭園にかけて新たに増設、リニューアルを行った（外周部 176 枚、デザートガーデン 31 枚、ロックガーデン 24 枚）
- 常設の各展示室において、植物分類の変更に伴い植物ラベルの更新および増設を行った。
- プチイングリッシュガーデンの改修 地拵え、エッジング、灌水装置の整備と植替えの為にレイアウトデザイン、植物購入計画を行った

<令和3年度>

- バックヤードで育成している補植用植物を適切に管理していたことにより、フラワーホール天井工事中に日照不足で枯死または弱った植物を速やかにバックヤードの植物と交換することができ、事による展示低下を最小限に抑えた。
- プチイングリッシュガーデンへの植栽を開始し、環境に配慮した持続可能なコミュニティガーデンのモデルガーデンを始動した。この取り組みはエルフガーデンプロジェクトとして、ボランティアの方々といっしょに管理をしていく地域と連携したモデルとして期待している。
- プチイングリッシュガーデンに除草や剪定枝の廃棄物を自然分解するSDGs BOXを設置し、廃棄物の削減と業務の効率化を行った。
- 草津市立水生植物公園みずの森のヒツジグサと咲くやこの花館保有のハスの種苗交換を行い相互の植物の充実を図った。
- 姫路市手柄山植物園よりウマノスズクサ譲り受け導入した。
- 東京ドームで開催された世界らん展 2023（2/8～14）に当館のコブラオーキッドの展示協力し、外部にも広くPRした。
- NHKの朝ドラ「らんまん」で題材となった牧野富太郎をテーマとした企画展を開催し、牧野博士が命名した植物の展示と牧野博士の功績や阪神間における活動を紹介した展示を通して緑化普及を図った。
- 関西圏の植物園間のネットワークに基づき、大阪公立大学附属植物園へのサガリバナ 6 本の譲渡等、植物園間の連携強化を図った。
- 役立つ植物広場にトウモロコシ（爆裂種）を栽培し、ポップコーンづくり体験教室を行い、子供に植物に触れる機会と食育につなげる場を提供した。



<令和4年度>

- 前年度より継続して企画展「阪神間の牧野富太郎博士の足跡と影響」を開催。牧野博士の弟子で灘校教諭の川崎先生が育てていた127種の山野草のうち50種超を、高山植物室での展示や「牧野PLANTSを見つけよう」と題して牧野博士ゆかりの植物にスポットをあてた展示を行い、緑化普

及を行った。

- 牧野博士に大きく関わりのある食虫植物展開催時に水生植物であるムジナモを水槽で展示し、冬に休眠をするムジナモの周年展示に成功した。ムジナモは開花動画を作成し、YouTube で配信、PRを行っている。
- 牧野富太郎展にあたり新たな植物の導入として、以下の植物を導入し、植物園としての充実を図った。
 - 1：スエコザサ …牧野記念庭園（練馬区みどり推進課より分譲）
 - 2：スイタクワイ …吹田市都市魅力部シティプロモーション推進室より分譲
 - 3：オオボウシバナ …草津市立 水生植物公園みずの森より導入
 - 4：ヤマトグサ …愛好家より導入
- 山野草展を開催している大阪山草会と協力し、牧野博士との関わり紹介展示を実施し、愛好会との連携強化と展示の充実を図った。
- 希少植物であるデビルズハンドツリーを国内で唯一保有している草津市立水生植物公園 みずの森より、国内での保有株全滅の危険分散から分譲され飼育を開始した。2023 年 3 月に初開花し、国内初の開花動画を撮影し youtube で配信した。国内でも久しぶりの開花で新聞やテレビでも取り上げられ貴重な植物として紹介された。

<令和5年度>

- 果樹栽培温室に害虫忌避照明導入し、環境に配慮した減農薬の取り組みのひとつとして実施を行った。
- 牧野富太郎博士関連の取組として愛玉籽研究室を通して台湾固有の植物であるアイギョクシタビ苗を導入し、植物園のコレクションの充実を図った。
- 古着からリサイクルされたサステナブル用土資材の活用に向けた試作（ラン、食虫植物）を行い今後の栽培に実用化に向け取り組みを実施した。
- 筑波実験植物園よりショクダイオオコンニャクの種子を導入し、植物園としての充実を図った。
- NHK テレビ【趣味の園芸】「これ、かっこイイぜ！」の撮影時に、俳優の滝藤健一さんと観葉植物栽培のトップランナーである杉山拓己さんがアンズリウムベイチーとコウテイアナナスを植栽し、メディアを通して館のPRと植物展示の充実を行った。
- 熱帯雨林室の滝エリアにアンズリウムの原種 2 種を導入し植栽し、コアな趣味家に人気の高いアンズリウムの充実を図った。



2-2 施設の管理

供用開始から 30 年以上経過した施設・設備が多く、比例して不具合や破損が頻発するため可能な範囲での予防修繕を実施している。日常点検時等に発見した不具合や破損は、巡回時に携行できる資材で修繕できるものはその場で対応し、手配に時間がかかるものについては立入禁止や接触防止措置の上、休館日や平日などの利用者が少ない時間帯に実施するなど利用者の妨げにならないよう実施した。また、一部の美装修繕には社団法人と連携したイベントとして、子どもたちのお仕事体験イベントを実施し、修繕による来園者満足度向上だけでなくイベントに参加した子どもたちの満足度も向上

させることにつながっている。



【主な取り組み事項】

（一般園地）

- 経年劣化の激しい園内便所等の手洗い器や水栓駒の大部分取り換えを実施した。
- 水銀灯の製造中止に伴い代替品の入手が困難かつ時間を要するようになったため、園路灯の点検を仕様書の1回/年を1回/月に増やし、不具合時に急ぎ対応できるよう努めた。
- 園内バス停、利用者の多いエリアのベンチ計24か所の座面を古くなった木材からリサイクル建材へリニューアルした。
- 園内出入口のバリカーや鶴見新山スロープ等の塗装を実施し、長寿命化及び景観向上による来園者満足度向上を図った。
- 園内すべての便所にトイレットペーパーホルダーを設置し、トイレ汚損の原因の一つであったトイレットペーパーのまき散らしや火遊びを解消した。
- 魅力向上事業で新設した遊具広場（つるみっこパーク）のブランコ下に水たまり防止のため人工芝を敷設した。



（咲くやこの花館）

維持管理方針ならびに維持管理業務仕様書を順守し、質の高い維持水準を保てるように努め、設備の老朽化による不具合などの修繕と維持管理により来園者が快適かつ安全に過ごせるような空間を提供した

- 各種設備の老朽化による故障、不具合を適宜修繕した
- 各植物室において通常樹木札と解説付き樹名札を増設した
- 外周緑地および各外部庭園に樹札を増設した
- 大容量空気清浄機の導入（コロナ対策）した
- 入口に非接触の自動検温サーマルモニターの設置（コロナ対策）した
- フローラルサロンのモニターを大型に見やすく更新した
- エントランスおよび券売所周辺アスファルト舗装の改修した
- サイン改修により、多言語、ピクト対応に変更した
- 授乳室の椅子を肘おき付きソファ型にするなど、より快適なものに更新した



- 本館（全トイレ）および事務所（1階）の手洗い自動水栓化の実施（新型コロナ感染防止策も含む）
- 高山植物室の展示ケース子供用踏み台を設置し、身長の高いお子様に観察しやすい環境を整えた
- ハイビスカスワールドの屋根ビニールを更新し、美装化とともに植物の栽培環境を改善した
- 館内のポスター掲示用フレーム更新、掲示用ボード増設した
- 貴賓室のトイレをリニューアルした
- レストランの客席を増設、チャイルドチェアも増設した
- 2F 展示室の展示パーテーションを可動式に改修した
- プチイングリッシュガーデンの外周フェンスを再塗装し外部と内部を調和のとれた美観に整えた
- フラワーホールログハウスを老朽化にともない改修した
- フラワーホール内の経年劣化した樹脂舗装を修繕した
- 正面入口アプローチの経年劣化した自然石アスファルト舗装を修繕した
- 熱帯雨林～花木室にかけての枕木舗装の老朽化による危険箇所を随時修繕した。
- 役立つ植物広場の老朽化したキウイ棚を改修した
- メディタレニアンガーデンの石張り舗装の段差を改修した



（ホール・茶室）

- 茶室むらさき亭と一般園地境界の竹垣が老朽化していたため、社団法人と連携し、近隣に住む子どもたちと一緒に竹垣をリニューアルした。
- 水の館ホール和式トイレを簡易式ではあるが洋式に変更した。

（乗馬苑）

- 乗馬センター男子トイレ照明を LED 化した。
- 乗馬センター男女更衣室、講義室、事務所のエアコンが老朽化のため交換し、利用者への利便性と利用快適度を向上した。
- 乗馬センター男女更衣室外壁クラックからの雨漏りがあったため、外壁工事を行い改善した。



- 馬場へ定期的な砂の補充をすることにより、騎乗時の安全性と利用快適度を向上した。
- 馬場の地盤からの改修工事を行い、凸凹のないフラットな馬場を作ることで水たまりや馬の躓きがなくなり安全性と利用快適度を向上した。

(パークゴルフ場)

- 安全・安心な利用環境の提供のため、スタート台のティー・OB杭・防球ネット等危険個所の補修を随時行うとともに、芝草のメンテナンスを強化し快適なコース維持管理に努めた。芝張替は毎年6月頃に実施。



2-3 利用促進

2-3-1 公園全体及び一般園地

- 前指定管理者が発行していた鶴見緑地広報誌「つるみ〜つ」の継続した作成、配架に加え、読者との距離を近づけるために「筆者のつぶやき」コーナーを新設した。
- 鶴見緑地の情報をスマートフォン等からいつでもどこでも確認できるようホームページをリニューアルし、施設情報やイベント情報をわかりやすく発信している。
- 一般フリーペーパー（SUUMO、アルキメトロ等）や大阪市及び鶴見区が発行する広報誌等へ記事掲出を行い、特に鶴見緑地に来たことがない方への情報リーチ数を拡大させた。
- SNSを積極的に活用し、花情報を中心にイベント情報や鶴見緑地で起きた出来事等を発信している。【Instagram（フォロワー11,623人※R2年度+8,350人）、Twitter（フォロワー5,117人※R2年度+3,304人）R6年3月31日現在】
- 繁忙期に駐車場の出庫渋滞が著しかったため、事前精算機の設置や土日祝日に誘導員を配置するなど混雑緩和に努めた。
- 大阪市内で最も高い山である鶴見新山から初日の出を見ることができるよう、通常朝9時に開場している山のエリアを元日は5時に開場した。直近のR6年1月には約1,000人以上の人が初日の出を見るべく集まっていた。
- 車いす・ベビーカーの貸し出しを行った。



2-3-2 有料施設

(咲くやこの花館)

<プレス等による広報活動の充実>

掲載：新聞27件、TV37件、雑誌20件、WEB127件、YouTube11件、フリーペーパー42件、ラジオ6件、地下鉄長堀鶴見緑地沿線での掲出や書籍等への寄稿15件

- 大阪市、門真市、守口市の小学校通送を活用したイベント広報物の配布（春・夏・冬）15 万部/回
Youtube 動画での PR
- 各イベント時にチラシ、ポスター作成し配架（他植物園 30、市内施設 60、公園 50、他施設 20、マスコミ 30）
- 日本植物園協会発行誌での植物園紹介、公園の来園者への PR
- 花蓮・睡蓮展を館内から館の外（前池）にて展示
- 他施設でのグッズ販売（大阪市自然史博物館・鳥取県立博物館・富山県中央植物園・六甲高山植物園・夢の島植物園・牧野植物園）

<オンラインでのサービス>

- オンラインショップ（グッズ販売・オンライン教室）
- 日本植物園協会での PR 動画配信

<イベントの実施>

- イベント時の飲食出店及びクリエイターの出展を実施
- イベントでのオリジナルワークショップを実施
- 関西文化の日（入館無料）を実施
- 阪神高速 ETC 乗り放題パスへのクーポン協賛提携
- 大阪市プレミアム商品券対応施設への加盟
- 三井アウトレットパーク大阪鶴見 入館特典協力
- 地下鉄掲載（無料）& 冊子掲載 によるスポンサーの協力
- 近畿日本ツーリスト 校外学習スポット教育旅行用資料提供
- 鶴見緑地内のコンソ施設へのチラシ配架
- ららぽーと×三井アウトレットパークとの提携 入館特典
- 情報発信力強化 YouTube ショクナナ!植物遊戯 7 チャンネル への情報提供（バオバブ夜間開館等）
- おおさか都市緑化フェアにてイベントチラシなど広報物配架を行った
- 鶴見緑地内のイベント「鶴見緑地フェスタ」のチラシ提示で入館特典協力
- 鶴見緑地フェスタにてティーボールイベント実施。会場での PR、入館特典協力、景品の提供
- あいあいパーク相互連携イベント情報関西おすすめの植物園のチラシ配架
- 大阪市プレミアム付き商品券 2023 へ提携
- 京阪百貨店守口店 関西らんフェスタ PR 春の洋ラン展 ポスター掲示、チラシ設置
- 鶴見緑地内のイベント「クラフトビアホリデー」のチケット提示で入館特典の協力
- 大阪ユニセフ協会と連携し、環境問題の写真展を実施
- SNS を積極的に活用し、花情報を中心にイベント情報や鶴見緑地で起きた出来事等を発信している。【Instagram（フォロワー7,000 人※R2 年度+4,100 人）、Twitter（フォロワー15,000 人※R2 年度+5,000 人）R6 年 3 月 31 日現在】
- 車いす・ベビーカーの貸し出しを行った。
- 熱中症対策（保冷剤）として夏の期間、館内入口にて保冷剤を配布した
- 蚊などの虫刺され対策として館内入口にて虫よけスプレーを設置した
- 雨天時に外部庭園散策用の傘を貸出した
（ホール・茶室）

- イベント事業者のリピート率が上がるよう、鶴見緑地のホームページを利用しフリーマーケット等の集客イベント告知を施設側として積極的に行った。
- 利用率の低い茶室むらさき亭の認知度を向上させるため、一服亭（自主事業）を月１回程度実施した。

（乗馬苑）

- 乗馬苑利用者がイベントやキャンペーン等の最新情報をいつでも確認できるよう、掲載情報を随時更新した。
- 夏季や冬季の気候が厳しい時期など利用者が来苑しやすくするため、鶴見緑地駅からの随時送迎バスの運行を開始した。
- リアルタイムに乗馬苑からの情報が配信されるよう、会員専用のスマートフォン用アプリを作成・運用した。また利用券をアプリ内で管理できるようにし、紙媒体の利用券を使用しなくてもアプリのデータで利用券の購入・使用ができるようにした。
- 公式ラインの登録してもらうことにより、一般の利用者にもイベント情報やお得なクーポン券を配信している。

（パークゴルフ場）

- 自治会、月例、ミズノカップ等大会開催告知ポスターを掲示。愛好者の参加促進とコミュニティの場を創出した。
- 日頃の感謝の意を込め、年始開場の３日間に年賀タオルを配布（各日先着１００名）。
- 毎月最終月曜に月例大会を開催。競技志向の顧客満足を高めた。

２－４ 安全管理

２－４－１ 公園全体及び一般園地

事故防止・危険防止のために日々の巡回・巡視点検を確実に行之、危険を招く利用者に対しては注意や声掛けを行うほか、施設の日常点検により必要な補修を適切に行い常に安全を確保した。また、各施設で様々な研修・訓練を行うことで非常時にも適切に対応できるよう努めた。

※６－４「職員研修等」参照

（一般園地）

維持管理業務上の作業は安全対策としてカラーコーン等の設置や事前告知により、来園者があやまって作業エリアに侵入することを防いでいる。また、事件・事故発生時には迅速・的確な対応が取れるよう「安全対策及び事故・災害対応マニュアル」に基づく訓練を行った。

- 毎日の巡回・巡視等に従事するスタッフが変わっても対応を均一化させるため、全員が複数の役割を担えるよう訓練を実施しておくとともに、デイリー表によるその日の役割を明確にして職務に当たった。
- 警報発令時の施設の安全管理は「動員名簿」「安全対策及び事故・災害対応マニュアル」建設局からかねてより発信されている「公園有料施設等における台風接近時の対応について」に基づいて

対応した。

- 実際に事故が発生した場合は直ちに現場へ急行し状況及び内容を把握し、負傷者がいる場合はその保護、応急手当、救急車の要請等初動対応を適切に行うとともに、大阪市の担当部局に対して30分以内に報告、並行して事故の初期対応と事故現場の状況を記録保存し、速やかに事故報告書を作成した。作成した事故報告書は対応完了後、大阪市へ報告の上原本はパークセンター事務所にて適切に保管した。

2-4-1 有料施設

(咲くやこの花館)

【維持管理業務における作業時の安全対策】

- 各作業に当たってはケガ等の無いよう十分留意し、高所作業を行う場合はヘルメット、安全帯を必ず着用するとともに、作業前に作業員全員でミーティングを行い作業内容や安全作業の確認を行った後作業を実施
- 主に熱中症対策として作業にあたっては適度な休憩や内容によって複数人体制で実施
- 作業時には、常に植物や既存施設等に損傷を与えないよう注意し、作業を実施

【お客様への安全対策】

- スタッフによる巡回チェック（午前、午後、閉館時 3回/日）を実施
 - スタッフによる不具合チェック（1回/日）を実施
 - 大阪市内に暴風警報が発令された場合は、警報発令時の施設の安全管理は「動員名簿」「安全対策及び事故・災害対応マニュアル」建設局からかねてより発信されている「公園有料施設等における台風接近時の対応について」に基づいて対応し、臨時閉館を実施
 - 来館者の安全と利便等に十分配慮し、休館日を活用した効率的な作業や、作業に応じた保安用具の設置等安全管理計画をたてて作業を実施
 - 事件事故が発生した場合は、直ちに現場に急行して状況及び内容を把握し、負傷者の保護・救護、応急手当、救急車の要請、初動対応を適切に行うと共に、大阪市へ第一報を30分以内に報告したのち、対象事案の状況を記録保存し、速やかに事故報告書を作成した
 - 事故報告書は、市様に報告し、事案完了後、事務所内にて適切に保管した
 - 事故は初期対応が重要であるため、常日頃から、事故等に対応する体制と役割分担を明確にし、事故発生時に速やかに対応できる体制を整えた。
 - シフト制の為、どのスタッフでも適切な応急対応ができるよう、役割を明確にした体制づくりを実施した
 - 雷、地震発生時に、館内放送およびアテンダントによりお客様を誘導した
 - 熱中症警戒アラートを基準に熱中症が心配される時期に館入り口にて保冷剤を配布するとともに注意喚起 館内掲示および館内放送にて呼びかけを実施した。また、万が一に備え経口補水液を常備し、必要時に配布
 - 職場内にて安全衛生委員会（3回/年）、安全衛生巡視（1回/年）や消防訓練を実施した
- (ホール・茶室)
- 利用の有無にかかわらず、施設巡回を行い不正利用者や施設異常がないか等日常点検を徹底した。

- 毎日、心肺蘇生法訓練（CPR 訓練）を実施し緊急時に備えての技法訓練を行っている。
- 日常点検の他に月 1 回の定期点検を行い危険個所の早期発見と是正により安全に利用できるよう努めた。

（乗馬苑）

- 乗馬指導者講習会、動物取扱責任者講習会、他各種研修会を受講してスタッフの安全管理意識の習得を行っている。
- 落馬時の受傷防止対策として、騎乗時のヘルメット（3 点式）、とエアバックベストの着用を義務化している。
- 騎乗時の事故防止対策として随時馬場整備の実施と砂の補充を行い、さらに年 1 回程度の定期的な地盤改修工事の実施している。



- 適宜馬具、装備品の劣化等の点検、交換、修繕の実施。
- 火災報知器、パッシブセンサーによる発報通報システムの機械警備を導入した。
- 災害対策マニュアルの作成と職員への内容周知を行っている。

（パークゴルフ場）

- 高所作業、刈払機使用時は原則二人体制で作業し、周囲の安全確認を徹底した。
- 雷雨、暴風注意報、警報等の情報収集と、発生時には管理棟他への誘導体制を確認。
- 夏季は熱中症予防として水分補給と休息の声掛けを励行。スタート横に簡易ミストを設置。



2-5 人材等の適正配置

1. 総括責任者

総括責任者	

2. 施設責任者等

施設名	施設責任者	その他職員	経歴等
一般園地		常勤職員 14 名 アルバイト 2 名	
咲くやこの花館		常勤職員 10 名 アルバイト 14 名	
陳列館ホール・ 水の館ホール・ 茶室むらさき亭		常勤職員 2 名 パート 4 名	
鶴見緑地馬場 (乗馬苑)		常勤職員 11 名 アルバイト 19 名	
鶴見緑地パーク ゴルフ場		常勤職員 1 名 アルバイト 5 名	

3. その他

その他責任者等	
電気主任技術者	
エネルギー管理員	
防火管理者	一般園地： 咲くやこの花館： 陳列館ホール・水の館ホール： ※茶室むらさき亭、鶴見緑地馬場、鶴見緑地パーク ゴルフ場については、防火管理者選任対象外施設。

2-6 市民等との協働・連携

鶴見緑地は地域や市民の集い・憩いの場として非常に愛されている公園であり、今回の指定管理事業者選定時においても地域と協働・連携するためのプラットフォーム作りについて附帯意見をいただいている。指定管理者、周辺施設、大阪市、自治会からなる「鶴見緑地ぷらっとフォーム」は R2 年に構想を共有し、R3 年に発足させた会議体であり、利用者としての目線だけでなく管理者の目線をもって意見を交わす集団として活動している。魅力向上に係る新規施設の整備の際には地域への情報発信や意見集約など、鶴見緑地をよりよくするための建設的な会議体として協働・連携してきた。

構成メンバー： 指定管理者グループ7社、売店運営者、大阪市建設局、同環境局、同鶴見区役所、なにわエコスクエア管理・運営各受託者、国際花と緑の博覧会記念協会、地球環境センター、つるみこどもホスピス、パートナードッグタウン、フットメッセ、水春及びB-fit、迎賓館、フラワーソサエティ、鶴見区地域振興会
計 21 団体

【主な活動事例】

- 会議体の趣旨を共有し、「管理者へ要望をいう場」ではなく「一緒に公園をよくする場」とする参加者の意識改革
- 区民祭りや区政 50 周年イベントに向けての調整
- 魅力向上に係る新規施設への地元意見集約
- 新設した遊具広場について市民への愛称募集及び愛称決定。さらに愛称決定を記念したイベントの開催。
- 参加者から最も要望の多かった大型食フェスの誘致開催
- 実施には至らなかったが、園内にスケボーパークを設置するための協議

【その他市民等との協働・連携について】

（一般園地）

- 大阪市を中心に、保育園、支援学校、小中学校等計 127 施設の遠足や校外学習の受け入れと利用調整を行っている。
- 大学連携として、大阪大学超域イノベーション博士課程プログラムへの鶴見緑地をテーマとした課題・活動フィールド提供や、北九州大学・九州産業大学の教授・学生らの研究に対する協力を行った。事業者が提案・実施する内容に加えて行政側の制度作りにも焦点があたり、今後の行政と事業者の関係性や役割分担についても関心を持たれた。
- 公園活用事業の先進事例としての全国自治体からの視察受け入れや、大阪・関西万博 2025 に関する政府要人視察、また横浜国際園芸博覧会 2027 に関する自治体及び協会からの視察に対して適切に対応した。

- 鶴見フラワークラブをはじめ、園内で活動する多くのボランティア団体や近隣融資団体の活動をサポートしている。また、地域に愛される鶴見緑地だからこそ多い近隣企業のボランティア活動についても活動場所を提供している。



- 認定 NPO 法人 Homedoor を通じて野宿生活者の自立支援を実施した。※詳細は 4-3-2 を参照
- 一般財団法人環境事業協会と連携して実施している「あわい農園※」では、鶴見区の子ども食堂や守口市の子ども食堂と連携し、子ども食堂利用する子どもと保護者の方を対象に、体験学習施設の一部を活用して野菜などの収穫体験を開催し収穫物を子ども食堂へ寄付している。また収穫物の一部は毎年開催している大型自主イベント鶴見緑地フェスタにて参加者である子どもたちが自分たちで値付け販売する取り組みを行っている。※売り上げは直接活動費へ充当している。
※あわい農園は R3 年 7 月に（一財）環境事業協会の企画・運営でスタートした、①都市の循環農
②子ども食堂支援③はたらく支援を目的とした事業で、鶴見緑地パークセンターとしては活動場所の支援と運営協力を行っている。

- 鶴見消防署と連携し、年間約 100 件の要救護者の場所を早期特定するため園路灯に消防雑学付きの位置番号を取付けた。
- 消防署の訓練場所としてパークセンターバックヤードを無償で貸し出し、より強固な連携を目指している。
- 大阪城公園、難波宮公園、長居公園、天王寺公園と管理運営情報や園内イベント情報を共有し、管理水準の認識共有と公園ごとの特徴を生かした魅力向上を図るための会議体を組成し、公園ごとの課題・対応方法の共有により公園運営における考え方の標準化を実施している。



（咲くやこの花館）

- 植物愛好家ほか市民団体と共催し、展示会やイベントを開催した
- 大阪市を中心に、保育園、幼稚園、小中学校、高校、一般団体、福祉施設等の遠足や校外学習の受け入れと利用調整を行っている。
- 外周庭園を管理するエルフガーデンボランティアをはじめ、ハワイツアーボランティアや園芸相談、館内案内など館内で活動する多くのボランティアをサポートしている。
- 地域連絡会、施設連絡会により連携として情報交換や、各地域でのイベント告知回覧などの PR を図っている。
- イオンモール鶴見緑地との連携としてイオンモール各階に当館掲示板を無料設置。年 2 回の出張ワークショップを開催
- NPO 昆虫学習館による「植物と昆虫教室」の開催
- 博物館学芸員実習受入れ（R2 年～R6 年度まで 53 名）
- 大阪市内の中学校の「職場体験」の受け入れ（R4～R5 年度で 10 名 ※R2.3 年度はコロナで中止）
- 大阪ビジネスカレッジ専門学校：実習場所がなくなった学生とともに、イベントの設営・ワークショップを開催し、学生の活動の場を提供。



（ホール・茶室）

- 茶室など地元の茶道教室の先生を招いてイベントを行った。
- 従前から利用されていた優先利用団体、減免団体の貸し出しを行うことで地域イベントに協力してきた。また今後も協議を行いながら、地元団体も含めて活用できる環境は作っていく。

（乗馬苑）

- 大阪府立および大阪市立支援学校、大阪市立小中学校をはじめ教育施設、福祉施設、団体等の体験学習、職場体験の受け入れ
- 園内施設連携として鶴見緑地フェスタへ、その他施設との連携として外部団体へのふれあいポニー出張イベントの実施。



（パークゴルフ場）

- 鶴見区つる魅力検定への協賛。優待券提供で新規入場の機会創出を図る。
- 地域自治会開催大会に対して、スコア集計や組み合わせ作成など積極的に協力。
- 校外学習等、団体利用の勧誘と運営協力を実施（高槻中・高、柴島中など）。

2-7 施設間の相互連携

指定管理施設だけでなく、公園内の管理外施設も含め相互連携による鶴見緑地としての魅力向上・利便性向上・満足度向上に努めた。

【主な取り組み】

- 鶴見緑地フェスタに合わせて各施設の出店及び施設イベントを開催。咲くやこの花館のスパイス展、乗馬苑のふれあいコーナー等様々なコンテンツ連携を行った。
- なにわ ECO スクエア主催の ECO 縁日の実施連携、調整を行った。
- なにわ ECO スクエアの運営受託者である環境事業協会及びイー・ビーイングと連携し、カマキリ博士で有名な有識者を招致した昆虫観察会を行った。
- コメダ珈琲、スターバックス、BOTANICAL HOUSE、アルペンアウトドアーズに園内情報誌つるみをつを配架し、情報発信と園内への誘引とした。また、コメダ珈琲、スターバックス、アルペンアウトドアーズそれぞれの利用者かつ駐車場利用者には駐車料金が一定時間無料になるサービス券を配布する連携を行った。

- 鶴見ノ森迎賓館で結婚式をされた方の二次会を BOTANICAL HOUSE で開催できる連携を行った。
- 2022 年より、TSURUMI こどもホスピスの趣旨に賛同し、公益社団法人こどものホスピスプロジェクトに対して寄付を行っている。また、こどもホスピスの活動を PRしながら参加費を全額ホスピスへ寄付する「チューリップの球根ほ〜る」「コスモスと〜る」は、大花壇に植えているチューリップの球根やコスモスを抜き取り持ち帰っていただくことで処分していた資源を活用しながら園内施設との連携を図っている。

<イベントでの連携>

- 大型イベントとして以下の企業、団体に共催、協力をいただいた
 - 熱帯フルーツ展
タイ国政府観光庁大阪事務所、台北大阪経済文化弁事處、在本邦インドネシア共和国大使館、インドネシア共和国商業省協力、台湾観光局、台湾観光協会大阪事務所
 - 虫を食べる植物展
非営利団体 昆虫科学教育館、基礎生物学研究所、ターナー色彩株式会社、認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン、VW-Craft (ヴィークラフト)、ミューゼ株式会社 コンディショニングサロン&Cuara・アロマセラピーサロン LUNE、アロマてとて、かめたん工房、ワイエスコポーレーション、一般社団法人ユニバーサルデザイナーズ協会、錫匠、地球温暖化防止活動推進員(大阪府知事委嘱)、日本苔緑化研究所、兵庫県立フラワーセンター、伊藤蟻植物農園
 - クリスマスローズ・原種シクラメン展
横山園芸、陽春園植物場、童仙房、花郷園、英国シクラメン協会日本支部、日本クリスマスローズ協会、京阪園芸
 - POP なきのこ展
株式会社岩出菌学研究所(株式会社 シエン)、国立科学博物館、群馬県立自然史博物館、日本冬虫夏草の会、大阪市立自然史博物館、兵庫県立御影高等学校環境科学部、公益財団法人南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰館、鳥取県立博物館、和歌山県立自然博物館、gracilis-works、一般財団法人日本きのこセンター、関西菌類談話会、森産業株式会社、コケのインテリア コケリウム、オオサカきのこ大祭、宮崎県総合博物館、渋谷区ふれあい植物センター、日本缶詰びん詰レトルト食品協会、ハチ食品株式会社、
 - スパイス展
一般社団法人ご当地レトルトカレー協会、エスビー食品株式会社、大阪市立自然史博物館、株式会社松栄堂、薫習館、全日本カレー工業協同組合、武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園、日本新薬株式会社 山科植物資料館、ハウス食品グループ本社(株)、京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)、株式会社栃本天海堂、アフリカンダンスストライプス、三好アグリテック株式会社、森野サンプル、大王わさび農場、インドネシア大使館、公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会
 - こけ展
日本蘚苔類学会、岡山コケの会関西支部、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、国立極地研究所、奥入瀬自然観光資源研究会、北八ヶ岳苔の会、一般社団法人 屋久島アカデミー、

Moss light-LED、苔こっこ、苔・なっこ、Japorium®、伊勢の苔玉やさん、城東社中、金木犀、With earth、蘇苔家、Moss forest、ジャパンモスファクトリー、モスファーム、江津苔プロジェクト、gracilis-works、株式会社岩出菌学研究所

➤ こども絵画展

大阪市教育委員会、大阪市立幼稚園 PTA 連絡協議会

➤ 大阪ばら祭

おくだばらえん、大阪ビジネスカレッジ専門学校、山川ばら園

➤ カカオとコーヒー展

株式会社明治、一宮物産株式会社、一般社団法人全日本コーヒー協会、日本チョコレート・ココア協会、一般社団法人日本洋菓子協会連合会、キーコーヒー株式会社、有限会社上町珈琲、島根県浜田市 UCC 上島珈琲株式会社、株式会社前田商店、大阪市立科学館

➤ ハンギングバスケット展

日本ハンギングバスケット協会 大阪支部、花博フラワークラブ、(株)伊藤商事、(一社)フラワーソサイエティー、(株)アルスコポーレーション、(株)住友化学園芸、(株)ハイポネックスジャパン、メネデール(株)、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会

計 112 団体

<大学や教育施設との連携>

- 京都大学大学院理学研究科によるユリの遺伝子調査に協力
- トックリキワタ 国立科学博物館が DNA 解析 花色色素分析は琉球大で共同研究 同時にケイバ SP も研究してもらう
- 水戸市植物公園へトックリキワタ穂木を提供した
- 北海道大学 メタコレクション適用の為の研究への協力
- 神戸大学 サボテン科植物 CAM 型光合成の解明の為の研究への協力
- 日植協夏休みオンラインシンポジウムへの発表、参加
- 咲くやこの花中学校科学部 シダ植物の孢子散布発芽についての研究協力
- 大阪公立大学 果実の色と生活形の関係 研究への協力
- 研究協力として宮城大学ヘイナゴマメの葉、鞘などを分譲
- 大東市大阪市教員向け教科研修
- 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 3 名視察（栽培方法や設備関係）
- 大阪医療技術学園専門学校へのハーブ園作庭へのアドバイス依頼への協力

<他の植物園との連携>

- 奄美大島生育絶滅危惧種サガリランを沖縄美ら島財団より受け入れ危険分散のための保護のため栽培した
- 日植協夏休みオンラインシンポジウムへの発表、参加
- 高知県立牧野植物園より牧野富太郎植物図ムジナモの展示用資料借用し展示した
- 名古屋市東谷山フルーツパークへのロウソクノキ栽培指導
- 東谷山フルーツパーク 名古屋市みどりの協会「熱帯植物写真展」植物画像 25 点データ協力
- あわじグリーン館との牧野関連相互広報協力

- 先進地研修受入れ 一般財団法人みやざき公園協会 県立青島亜熱帯植物園
- 高知県立牧野植物園よりオオオニバスの種子導入
- 広島市植物公園へパラグアイオニバス葉提供
- 植物園協会公式 YouTube チャンネル 全国植物園をつなぐオンラインツアー第 6 弾 ありがとう「らんまん」への参加
- 筑波実験植物園よりショクダイオオコンニャクの種子導入
- 咲くやこの花館園内におけるコケ植物の調査（研究協力） 広島大学 2 名
- スーパーサイエンスハイスクールの事業東京学芸大学附属国際中等教育学校の受入れ

＜他施設との連携＞

- ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画展いきものの色展への協力として青いケシの実物
- ユニセフ写真展「洪水禍に生きる子どもたち」を開催 大阪ユニセフ協会と連携。ユニセフ・チャリティウォークも同時開催し、チャリティー景品を提供。
- 大阪ばら祭における第 20 回世界バラ会議福山大会、京阪園芸、デビッド・オースチン イングリッシュローズガーデンに関する資料やポスター、チラシ PR 提携
- 大阪府フラワー装飾技能士会 第 35 回技能向上コンテストへの賞、副賞の協力
- 花博協会との企画で「大阪公立大学附属植物園」「長居植物園」「咲くやこの花館」の各施設を牧野博展を巡るスタンプラリー
- ブロメリア協会神戸ミーティングにてティランジアを PR 展示
- なにわ ECO スクエアの運営受託者である環境事業協会及びイー・ビーイングと連携し、館長による植物の研修とフラワーツアーを行った。
- うめきた外庭 SQUARE Green Night Marche イベントへ植物出張展示への協力
- 大阪市自然史博物館 特別展「植物 地球を支える仲間たち」への生植物（キソウテンガイ）の展示協力およびチケット相互割引と植物展記念植物および咲くやオリジナルグッズ販売出店
- 国立科学博物館と連携しトックリキワタの DNA 解析を依頼。琉球大では花色色素分析の共同研究を行った。同時にケイバ SP の研究も行った
- 西日本植物多様性保全拠点園交流会】現状報告・活動報告
- 大阪公立大学附属植物園 視察、情報交換
- 海遊館からの熱帯雨林エクアドル水槽の植栽展示についての指導、助言などのアドバイザー協力
- 天王寺動物園と連携して『サバンナ堆肥で SDGs』～動物園の堆肥で植物園の土づくり～を実施
- 鶴見緑地フェスタに合わせて、咲くやこの花館のスパイス展、インドネシアフェスティバル、サバンナキッズステージイベント等のコンテンツ連携を行った。
- 公園でのイベント「わくわくいきものワールド」や「クラフトビアホリデー」などとの連携で、参加者に入館割引を行った
- ワイクラデイズ（ハワイイベント）への植物展示と館の PR を行った
- 「TEAM EXPO 2025」プログラムへの登録 共創チャレンジへの登録
- SDGs の取組としてバナナクロス推進委員会とのコラボ（スタッフ着用でアパレル商品 PR、ツアー、展示での PR、ノベルティ無償提供）

- 2025 万博共創チャレンジ いきもの みどりつながる・つなげるフェスティバル in 天王寺 ZOO への出展ワークショップ参加

<官公庁などとの連携>

- 大阪府河内警察署 アロエ損傷被害 捜査協力
- 「2027 年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO 2027)」関係の農林水産省、TOPPANN(株)ほかの施設見学
- 吹田市花とみどりの情報センターとの連携 第 99 回花と緑のフェア in 南千里公園への植物販売出店と PR
- 環境局の取り組みである脱炭素に資する実証実験 ミュージアムショップ前で冷蔵陳列ケースにて飲料の販売を実施
- 吹田市都市魅力部シティプロモーション推進室との連携 スイタグワイ寄贈 ゆるキャラ すいたん来館 SNS で相互 PR
- 大阪市グリーンコーディネーター育成講習会 in 咲くや フラワーツアー、講義などの協力
- 大阪府警察本部への捜査協力（ビックモーター除草剤の件）
- ワシントン条約に該当する疑いのある植物の鑑定に協力し、大阪税関より表彰された

2-8 利用者意見の反映

※詳細は 別紙 利用者満足度の把握と反映状況 を参照

利用者満足度の把握と反映方法

施設名	年間調査回数	調査対象・調査方法・回答数	主な意見	意見の反映方法
一般園地	1 回/年	11 月に行う周年イベントの来園者に対し、QR コードを用いた Web で実施。	トイレが汚いことがある トイレットペーパーが切れていた	行楽シーズンやイベント時に合わせて清掃頻度を可能な限り調整。イベント主催者にトイレットペーパーの補充を条件とするなどで対応した。
			ゴミ箱を設置してほしい（増やしてほしい）	イベントの際には事業者もしくは指定管理者にてごみステーションを設置しているが、常設のごみ箱は大阪市指示により設置する予定はない。
咲くやこの花館	毎日	紙媒体と Web の両方でアンケート実施。アンケート台を常時設置し紙媒体は毎日回収	「世界の植物がみれてよかった」、「イベントが楽しかった」などのポジティブな意見が大半を占めているが、「植物ラベルを大きくしてほしい」などの意見	樹木ラベルを増設した。 植物についての説明ブラックボードを設置した。

陳列館ホール	一催事/1回	利用時に紙媒体で実施	設備老朽化や備品に対する意見が多い	修繕計画を立て、修繕・更新実施
水の館ホール	一催事/1回	利用時に紙媒体で実施	設備老朽化や備品に対する意見が多い	修繕計画を立て、修繕・更新実施
茶室むらさき亭	一催事/1回	利用時に紙媒体で実施	設備老朽化や備品に対する意見が多い	修繕計画を立て、修繕・更新実施
鶴見緑地馬場 (乗馬苑)	5月、11月 / 1~2回	一般及び会員 WEB アンケート、 アプリアンケート	馬にエサをあげて楽しかった。 乗馬レッスンに参加するのが楽しみ	出張イベントの参加 ふれあいイベントの定期開催
鶴見緑地パークゴルフ場	年/1回	施設利用者アンケート	・コース内雑草が多い ・混雑時の適正な指導を要望	・雑草除去等のコースメンテナンスは日々実施済 ・担当者の巡回を強化
鶴見緑地球技場	9月～ 11月/1回	施設利用者アンケート	・暖かい日に蚊が多い ・次の使用者が時間前に入ってくる	・蚊取り線香を無料配布の告知 ・利用時間をPOPとして館内に掲示
鶴見緑地庭球場	9月～ 11月/1回	施設利用者アンケート	・施設の設備や予約に関する内容	・修繕や備品の交換など
鶴見緑地運動場	9月～ 11月/1回	施設利用者アンケート	・グラウンドの状態が悪い	不陸整地を実施
鶴見スポーツセンター	8月～ /1回	一般利用者アンケート	・掃除機やモップなど道具室をきれいにしてほしい	・モップや掃除機のフィルターの交換や倉庫内の掃除を定期的に行うようにした。
鶴見緑地プール	9月～3月 /1回	一般利用者アンケート	・冬場のプール水温が低い	業者点検を実施

3 スポーツ施設管理運営状況

維持管理方針並びに各施設の維持管理業務仕様書に基づき、各施設の特徴を踏まえ、その魅力が最大限発揮されるよう方針を立て、PDCA サイクルによるマネジメントを行った。

3-1 施設の管理

(鶴見緑地球技場・運動場・庭球場)

【主な取り組み事項】

- 日常的な清掃を毎日実施し、清潔で利用しやすい施設の環境維持に努めた。
- 人工芝グラウンドにおいて、定期的なメンテナンスの実行と清掃を実施、運動場においても毎日の整地を実施し、快適な利用状況の維持に努めた。
- スポーツ備品において、定期的な点検と点検表による管理を実施し、備品の状況についての把握と共有を行い、不具合については速やかな修繕執行に努め、安心安全な状態を保持した。
- グラウンドやコート周辺の植栽について、利用者に不快感を与えない、設備や建物に悪影響を及ぼさないよう適宜除草、剪定を実施し、外観も損なわない維持に努めた。

(鶴見緑地プール・スポーツセンター)

【主な取り組み事項】

- プールにおいて、繁忙期には、通常プールエリア外に人工芝敷きの屋外臨時休憩所を設けて飲食エリアを拡張し、混雑を緩和した。
- プールにおいて、ジャグジー屋根、ヤシの木、及び擬岩の再塗装などを行ない、景観クオリティを向上させた。
- プールにおいて、ジャグジー超音波ポンプ、ジャブジャブ池滝ポンプ、造波装置エアシリンダー、流水プール滝循環ポンプなどの機能部品を一新した。
- スポーツセンター、プール共に、日常清掃に加え、2回/年の定期清掃と害虫駆除、更衣室床スノコメンテナンスなど、清潔で快適な施設維持に努めた。



3-2 利用促進

【主な取り組み事項】

((鶴見緑地球技場・運動場・庭球場))

- ホームページのリニューアルを実施し、教室事業の体験申し込みや問い合わせが WEB 上でいつでも受け付けることを可能とし、時間を気にすることなく気軽に参加・問い合わせが可能な仕組みを整備した。
- SNS を活用し、施設情報や教室事業、イベントの案内・告知を行い、タイムリーな施設情報を提供することで、利用・来場の促進を図った。
- 広報紙である「広報つるみ」「つるみ〜つ」への掲載や、施設外において鶴見区役所、老人福祉センター、地下鉄の駅、子育てプラザなどへ施設案内のチラシの配布・設置を行い、施設の周知と利用促進を行った。
- 球技場において、毎週月曜日の休場を臨時開場とし、利用機会の創出を行った。
- 第 2 球技場において、大会・イベント利用者のニーズに応えるため、電源コンセントを新設し、音響機器等の利用を可能とし、利便性の向上を図った。
- 庭球場において、11 月～3 月の期間にて利用時間を延長し、利用機会の創出を行った。
- 第 2 球技場、庭球場において、夏季の熱中症と虫対策として、ミスト扇風機と蚊取り機の貸出を行い、快適な利用環境を整備した。

3,300円(月4回)	無料体験申込 お問合せ
3,600円(週1・月4回) 6,000円(週2・月8回)	無料体験申込 お問合せ

((鶴見緑地プール・スポーツセンター))

- ホームページのリニューアルを実施し、教室事業の体験申し込みや問い合わせが WEB 上でいつでも受け付けることを可能とし、時間を気にすることなく気軽に参加・問い合わせが可能な仕組みを整備した。
- SNS を活用し、施設情報や教室事業、イベントの案内・告知を行い、タイムリーな施設情報を提供することで、利用・来場の促進を図った。
- 広報紙である「広報つるみ」「つるみ〜つ」への掲載や、施設外において鶴見区役所、老人福祉センター、地下鉄の駅、子育てプラザなどへ施設案内のチラシの配布・設置を行い、施設の周知と利用促進を行った。
- プールにおいて、繁忙期の土日とお盆期間に開館時間を早め、利用時間の延長を行い利用促進に努めた。また、受付では翻訳アプリを用い、外国人利用者に対して円滑な受付・利用対応を行った。
- スポーツセンターにおいて、毎年 12 月 28 日の休館日を無料開放 DAY として開放し、スポーツセンターの利用とスポーツに接する機会を創出した。



3-3 安全管理

(鶴見緑地球技場・庭球場・運動場)

- 毎日の巡回点検として、開場前・午後・閉場前と1日3回を実施し、危険箇所や異常箇所の早期発見に努め、未然防止や補修等を行い利用者の安全を確保した。
- 利用者が使用するサッカーゴール、ラグビーポール、その他備品に関して、定期的に状態を点検、備品に不具合が発生していないかの確認を行うことで、安心・安全に使用できる状態を維持した。
- 夏季熱中症への注意喚起として、熱中症指数を毎日3回計測、場内へ掲示した。
- 事件・事故が発生した際は、大阪市の担当部局へ速やかに報告が可能であること、事案に対応可能となる運営体制を敷いた。
- 緊急連絡体制図、自衛消防組織図、スポーツ施設間の連絡表の最新版を常に事務所内に掲示、事件・事故発生時の連絡を速やかに実行した。
- 消防訓練、防災訓練を年2回実施、また、安全研修として CPR・AED 訓練を随時実施し、施設スタッフの対応力強化を行った。
-



(鶴見緑地プール・スポーツセンター)

- 毎日の巡回点検として、開場前・午後・閉場前と1日3回を実施し、危険箇所や異常箇所の早期発見に努め、未然防止や補修等を行い利用者の安全を確保した。
- 事件・事故が発生した際は、大阪市の担当部局へ速やかに報告が可能であること、事案に対応可能となる運営体制を敷いた。
- 緊急連絡体制図、自衛消防組織図、スポーツ施設間の連絡表の最新版を常に事務所内に掲示、事件・事故発生時の連絡を速やかに実行した。
- 消防訓練、防災訓練を年2回実施、また、安全研修として CPR・AED 訓練を随時実施し、施設スタッフの対応力強化を行った。
- 水中、水上での事故を想定した訓練を適宜実施、繁忙期である夏季プールの開業前には集中的に実施し、利用者の安全対策に努めた。



3-4 人材等の適正配置

1. 総括責任者

総括責任者	

2. 施設責任者等

施設名	施設責任者	その他職員	経歴等
鶴見緑地球技場		常勤職員 3 名 アルバイト 7 名	
鶴見緑地運動場		常勤職員 3 名 アルバイト 7 名	
鶴見緑地庭球場		常勤職員 3 名 アルバイト 7 名	
鶴見緑地プール		常勤職員 6 名 アルバイト 60 名(繁忙期最高時)	
鶴見緑地スポーツセンター		常勤職員 3 名 アルバイト 7 名	

3. その他

その他責任者等	
電気主任技術者	
エネルギー管理員	
防火管理者	鶴見緑地球技場 : 鶴見スポーツセンター : 鶴見緑地プール :

各施設資格保有者等		
鶴見緑地球技場		
鶴見緑地プール 兼 鶴見緑地球技場 兼 鶴見緑地庭球場 兼 鶴見スポーツセンター		
鶴見緑地庭球場		
鶴見緑地プール		

鶴見スポーツセンター		

3-5 市民等との協働・連携

【主な活動事例】

- R4 年度より、大阪スポーツみどり財団を通じて長居公園イベントへの景品協賛を行い、相互利用の促進を図っている
- R5 年度より、プールにおいて、インターナショナルスクールの遠足に協力し、25 名程度/年の団体受入を行っている。
- スポーツセンターにおいて、スタッフを 2 回～3 回/年、鶴見区子育てプラザへ派遣し、体操や運動遊びの指導などで運営協力を行っている。
- プール/ スポーツセンター / 球技場において、鶴見区/城東区の中学校職業体験に協力、1 回/年、4 名程度/施設の生徒受入を行ない、受付や教室運営（プールでは監視体験も）の実習を行なっている。
- R5 年度には、健康増進を目的として企業へも協力を打診し、鶴見緑地フェスタにおいてヤクルト社による血管年齢測定会を開催した。
- 報道/特集取材への協力を随時行っており、直近 R5 年度では、流水プールでのライフジャケット効果検証の取材及びテストの様子が放映された。

3-6 施設間の相互連携

【主な取り組み】

- お互いのイベント情報（ポスター等）掲示、当該施設利用者以外へ訴求するとともに、人的調整を行い運営クオリティの担保向上に努めている。
- スポーツセンター工事休館時、生徒の確認を取った上で、庭球場で教室開催し、受講機会の確保や庭球場の体験提供、将来の庭球場利用機会創出を行った。
- スポーツセンターのロゲイニングイベント「ENJOY☆鶴ロゲ」に際し、咲くやこの花館から景品協賛を受け、相互利用の促進を図っている。
- プールにおいて、プール利用レシート持参で、鶴見緑地湯本 水春が割引となるコラボレーション企画を実施、相互利用の促進を図っている。

3-7 利用者意見の反映

※詳細は 別紙 利用者満足度の把握と反映状況 を参照

利用者満足度の把握と反映方法

施設名	年間 調査回数	調査対象・調査 方法・回答数	主な意見	意見の反映方法
鶴見緑地球技場	9月～ 11月/1回	施設利用者 アンケート	・暖かい日に蚊が多い ・次の使用者が時間前に入ってくる	・蚊取り線香を無料配布の告知 ・利用時間をPOPとして館内に掲示
鶴見緑地庭球場	9月～ 11月/1回	施設利用者 アンケート	・施設の設備や予約に関する内容	・修繕や備品の交換など
鶴見緑地運動場	9月～ 11月/1回	施設利用者 アンケート	・グラウンドの状態が悪い	不陸整地を実施
鶴見スポーツセンター	8月～ /1回	一般利用者 アンケート	・掃除機やモップなど道具室をきれいにしてほしい	・モップや掃除機のフィルターの交換や倉庫内の掃除を定期的に行うようにした。
鶴見緑地プール	9月～3月 /1回	一般利用者 アンケート	・冬場のプール水温が低い	業者点検を実施

4 魅力向上事業実施状況

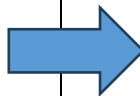
4-1 既存施設の魅力向上及び利活用

4-1-1 咲くやこの花館

咲くやこの花館及び館内レストランのリニューアル（内装の美装化）

咲くやこの花館前池周辺にニンファエアテラスとして、据置式ピクニックテーブルパラソル付きを4台設置した。時期により様相を変える咲くやこの花館前池を眺めながら休憩できるスペースとして、日中だけでなく夜の時間帯も人気のスポットとなった。また、館内レストランの床張り替え及び家具リニューアルを行い、平成初期の古いイメージが強かった内装を一新。大型植物を中心に緑あふれる空間を演出し、自動扉の設置や公園側からのアプローチ部分も改装することで、植物園とのトーンを合わせ、魅力向上を図った。

【リニューアル前】



【リニューアル後】



【その他サービス向上】

コロナ禍での取り組み

- ・オンラインワークショップの継続
- ・コロナ感染拡大防止対策として 館内の換気、入館者への水際検温、館内（椅子、テーブル、手すり等）の除菌作業を随時実施、除菌用アルコール消毒液の設置（設置場所：館内入口、案内所、1・2階トイレ、1階フラワーホール内）、改札および案内所に飛沫防止用の透明ビニールカーテン設置、エレベーター操作ボタンに抗菌シール貼付け、年間パスポートと入館券の有効期限を延長

咲くやこの花館のその他サービス

- ・ フラワーツアー時のイヤフォンガイド
- ・ 保冷剤配布による熱中症対策
- ・ お客様の希望する植物が見ごろになった際にご連絡を差し上げる「咲くやコール」を実施
- ・ 公園利用者へのトイレ（多目的を含む）のみ利用、授乳室のみ利用のお客様は無料に対応
- ・ ベビーカー・車いすの貸出
- ・ 大型荷物のお預かり（ロッカーに入らないものも対応）
- ・ 雨天時に外部庭園散策用の傘を貸出
- ・ 館内入口にて虫よけスプレー（ジェル）の提供
- ・ 多言語注意書作成



咲くやこの花館のツアー、ライブ解説

- ・ 咲くやこの花館を 10 倍楽しめるフラワーアテンドによるフラワーツアー（無料）を毎日（午前・午後の 2 回）実施
- ・ 団体ツアー（有料）を予約制で実施
- ・ イベントに応じて特別にライブ解説を実施
- ・ ボランティアガイドによる館内のハワイの固有植物や伝統植物・外来植物などを一緒に観察し、ハワイの自然環境や文化を植物から考えるハワイツアーを実施
- ・ ボランティアスタッフによる館内ガイドの実施
- ・ クイズラリーやイベントに付随するラリーなどを実施



【既存イベントのブラッシュアップ】

サボテン・多肉植物展

「サボテン展」では、メキシコなどの現地の飲食店や雑貨店、ステージイベントを実施して、会場を盛り上げた。また、サボテン・多肉の専門店をによる販売会やサボテンや咲くや職員による多肉植物解体ショー（鉢いっぱいに行った多肉植物の株分け）を実施した。

また、今年度より新たに「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」に基づき、任意放棄され取得し栽培していた植物を啓発パネルとともに自然保護を知ってもらう展示を行った。



熱帯フルーツ展

2021 年はコロナのため展示のみであったが 2022 年より新たにインドネシアをはじめとした熱帯の国々などの雑貨販売や民族音楽、舞踊などのショーや食や文化などが楽しめる内容にし、2023 年からはインドネシアフェアとして 2 階展示するとともにフルーツの器を作るカービングショーやワークショップ、台湾固有のアイギョクシタビの種子を揉んで作るオーギョーチゼリーWS を開催した。



虫を食べる植物展 「虫を食べる植物展」では、「アリ植物展」や「昆虫教室」などを同時開催し、植物と虫との共生についても学べる展示を中心に約 100 倍のハエトリグサと約 200 倍のモウセンゴケの拡大模型や写真家 Chien C. Lee 氏の食虫植物写真展や基礎生物学研究所 長谷部氏の講演のほか牧野博士を一躍有名にしたムジナモの生体展示や紹介、牧野博士の写真、植物画のパネルを展示した。 R6 年度には、食虫植物をレンジャーとしてキャラクター化し、子どもに親しみを感じながら学べると要素として好評を得た。	 
---	--

こけ展、きのこマーケット こけ展(1 月)に加え、「きのこマーケット」を同時開催することで、相乗効果を図った。 コケのテラリウムや苔玉といった作品の展示・販売、コケの有名スポットや生産地の紹介する様々な展示を実施した。新たに南極のコケの紹介や氷の展示に加え国立極地研究所 伊村氏による講座を開催した	 
---	--

カカオとコーヒー展 「カカオとコーヒー展」では、実際に果実のなるカカオノキとコーヒーノキの展示を中心に、その歴史、チョコレートやコーヒーになる工程など展示やワークショップを通じて体験してもらうことで植物をより深く知るきっかけづくりを行った。 触ったり、匂いをかいだり、味わったりし、五感で楽しめるイベントを実施。企業や出店者などとタイアップし、食育事業や焙煎体験などのワークショップを実施した。また、バリスタ世界チャンピオンなどコーヒーにまつわる第 1 人者やほか著名な講師によるセミナーを多数実施した。	 
--	--

【新規イベントの企画・実施】

花の万博 30 周年記念メモリアル展花博から 30 年のあゆみ (R2 年度) ＜園芸界、咲くやこの花館＞1990～2020～ 花博が園芸界に残した素晴らしい贈り物の歴史、そして咲くやこの花館の絶えなき進化の歴史を展示した。また、室内、ベランダで楽しめる新しい手法のガーデニング方法を生きた植物で紹介するとともに、30 周年記念の楽しいワークショップや植物販売も開催した。	 
--	--

刺激スパイス展 (R3 年度)

香辛料や香料のもととなる植物の展示とその原産国の食や文化を紹介する五感で楽しめるイベントで、期間中の土日祝には有名スパイスカレー店を週替わりに出展させ、館内だけでなく一般園地でも飲食可能なイベントとした。コロナ禍での開催時には館外での飲食を促すため、館外飲食に協力いただいた方にスパイス飴をプレゼントする取り組みを行った。R3 年度実施時には期間中約 2 万人の入館者数を記録した。



つりしのぶ展 (R3 年度～R6)

江戸時代より伝統的な夏の風物詩として涼感と風情を楽しむことで知られ、現在では専門に作る農園は全国に 2 軒のみで、歴史ある希少な伝統工芸植物を後世に紹介する展示を実施した。展示のほか販売会 & ワークショップも開催した。



Sakuya Green Jam (植物販売会) (R4 年度)

「植物に情熱を注ぐ出店者と、植物を愛するお客さん、植物の事を知っている人も知らない人も。多種多様な人々が咲くやに集まり、植物を通じて新たにうまれる人と人との繋がり」をコンセプトに個性の強い植物や珍しい希少な植物など、あらゆるジャンルの植物を扱う有名店舗の出店を集め、週替わりに出店者も変わりながら楽しめるイベントを企画し実施した。毎年、店舗数と質の高い店舗の選択やキッチンカー、セミナーなどの要素も増やして充実を図っている。



古典園芸 show & sale (R4 年度)

海外でも展示会が開かれるなど世界的に注目されている棕櫚竹をメインに江戸時代、琉球から国内に入ってきた観音竹や江戸時代より高級園芸種として栽培されている万年青、富貴蘭も加えた展示・販売会を開催した。



牧野富太郎展 ～博士の足跡と影響～（R4 年度）

牧野博士は、高知県佐川で生まれ、幼い頃から植物好きで、東京で本格的な植物研究に没頭しましたが、一方、阪神間でも各所で活動し、その足跡は身近な場所にも見られる。

展示では、博士の弟子、神戸灘校の川崎正悦（まさよし）教諭が 1934 年に手掛けた灘校校庭の高山植物園の築造の経緯などの紹介のほか、灘校にて栽培されていた高山植物、山野草を灘校と咲くやこの花館との資料調査で 127 種の植栽リストとともに当時の写真、図面が発見されました。発見された植栽リストの中から今回 60 種余を当館で紹介した。



『サバンナ堆肥で SDGs』 ～動物園の堆肥で植物園の土づくり～（R4 年度）

咲くやこの花館では、地方独立行政法人 天王寺動物園の動物の糞から作ったサバンナ堆肥を用いて、咲くやこの花館エルフガーデンの土作りを行った。イベント当日は来園者向けにサバンナ堆肥の配布を行った。



インドネシアフェスティバル ―多様性の国―（R5 年度）

インドネシアの多様な植物と植生を中心にアカデミックな講演会をはじめ、舞踊やファッションショーなどのステージイベント、食、服飾、雑貨などの物産展などを通してインドネシア文化を体験できるイベントを開催した。

また、夜間ナイト営業を行い、影絵芝居の上演や宮廷音楽の生演奏を開催し、普段と違う夜の植物園の魅力を紹介した。



きのこ大祭（R5 年度）

見る、食べる、愛でるをコンセプトに展示や販売、アート、トークショー、セミナーなどきのこの多面的な魅力を盛りだくさんに紹介するイベントを開催した。



ど根性スイカイベント（R5 年度）

御堂筋の中央分離帯から移植した通称「ど根性スイカ」を展示(大阪市様から依頼)。
展示中に「中を見てみたい」という要望を多くいただき追加で「切ってみる会」を開催。
植物としてのスイカの説明や中身の確認と種子採取などを行い、150 名の市民の方にご試食いただいた。



ショクナナフェス（R5 年度）

関西の花と緑の普及活動として立ち上げた YouTube ショクナナ！。関西の 6 つの植物園によるトーク座談会やトークショー、花苗がもらえるクイズ、ワークショップ、植物販売会など盛りだくさんの植物イベントとして開催。
ショクダイオオコンニャクの花のさく葉標本やプリザーブドフラワー、モルタル作品などの展示も！プリザーブドフラワーやモルタルアートの作品、ショクダイオオコンニャクの標本など展示の他、アートフラワー初心者向けのワークショップや植物販売も実施した。



鶴見区音楽団コンサート（R6）

フラワーホールのステージを活用した取り組みとして、地元鶴見区の鶴見区音楽団と連携して吹奏楽団によるコンサートを実施し、植物にまつわる楽曲も紹介した。



フォトスポットの告知宣伝

館内で栽培している大型の観葉植物「フィロデンドロン ギガンテウム（サトイモ科）」の切り葉を以前より入館者の記念撮影用に設置していたところ、R6 年 5 月中旬頃にインフルエンサーが TikTok などの SNS にアップしたことがきっかけとなり、動画を撮影するため来館する若者が急増し、熱帯雨林室に大挙して訪れる状況が続いている。葉だけではなく、背景となる熱帯雨林室がいわゆる‘映えスポット’として評判となり、若年層の大幅な増、ひいては有料入館者の大幅増となっている。



4-1-2 その他一般園地エリア

山のエリアにベンチ設置 パーゴラ等休憩所が点在する山のエリアだが、よりゆったりと散策してもらえるよう休憩用のテーブルベンチを 17 台設置した。内訳は下記のとおり。 大花壇周辺：背付きベンチ 3 台、据置式木製テーブル 3 台 かりんの広場周辺：背付きベンチ 3 台 花の辻：背付きベンチ 4 台 カナダ庭園前：据置式木製テーブル 2 台 いこいの広場：据置式ピクニックテーブルパラソル付き 2 台	
---	--

BBQ場のリニューアル バーベキュー場 2 エリアのテーブル及びイスを 30 セット、電気卓、炉を 20 基撤去後、60 サイト分の炉付きテーブル・イスを更新した。合わせてバーベキュー場を有料化することで 2019 年までの課題であった、「1 か月前の予約枠公開後すぐに満席になるが、無断キャンセル等により利用枠が空かず実際の利用者が少ない」件を解決し、公募時に公開された平成 29 年度のバーベキュー場（旧野外卓）の利用組数 7,319 組に対し、R5 年度の利用組数は 32,967 組となり、4 倍以上の方々に利用される施設にした。	
--	---

大芝生再生 大芝生のうち土が見えているところを健全な芝草地として再生するため、土壌の改良及び芝の植え付けを行った。当該地の水はけが悪いことや、休日によく利用される場所であることが影響し、定着に時間がかかったが現在はしっかりと芝草地へ復活した。	
--	--

鶴見新山の眺望確保 山頂からの眺望確保のため、大阪市方面の樹木を適切に剪定し、頂上から見える鶴見緑地の花々や、大阪の景色を一望できるようにした。R6 年度には山頂の草地部分に花壇やスロープ等を整備し、芝生と花々に囲まれた山頂へと改修を行った	
---	--

咲くやこの花館前売店（園芸売店）改修によるつるモビステーションの整備

提案時使用しないため解体する予定だった園芸売店を改修し、つるモビの受付・展示エリア・練習スペースを設け、安全に利用してもらうために規約の確認と操作練習を行っている。

つるモビは歩行補助型のパーソナルモビリティであり、R5 年度末時点で 8,000 人がアクティブ会員として登録されている。広大で起伏のある園内をより快適に楽しめる移動手段として多様な方が利用されている。



ユニオン・スクエア・ガーデンの壁面洗浄

R4 年 7 月に実施。大阪市にて発注された同施設の改修工事の終了に合わせて洗浄を行い、官民連携の魅力向上となった。景観もよくなったため楽器演奏などを楽しむ来園者でにぎわいを取り戻した半面、子どもたちのパルクール等に使用されることが増えたため、巡回時の声掛け頻度が増加した。安全を第一に考えつつも、快適で魅力ある施設運営を心掛けたい。



日本庭園の景観改善

日本庭園の外にある関連の無い伸び過ぎた樹木の適切な剪定を行い、日本庭園に本来不要な樹木が背景に入らないようにすることで日本庭園本来の景観を取り戻した。



迎賓館の活用・ユニークベニュー

安全と美観への要求が高いウエディング施設として利用することで、建物の品質維持に加えて公園全体の社会的価値や近隣住民ひいては大阪市民のシビックプライドの向上に貢献しています。主たる目的はウエディング施設としての活用ですが、地域のレセプション施設、パーティ会場として大小さまざまな会合等が行われています。R2 年度にはパーゴラ広場を利用して結婚式披露宴を行うなど立地を生かしたプラン展開を行っている。



大花壇の景観向上

大花壇南端で景観を阻害していたハイビヤクシン植栽帯を移植・大花壇を拡張し、風の広場から大花壇・風車を見上げた際に眼前いっぱい花の景色が広がる設えとして景観を向上させた。



サンクンガーデンリニューアル

老朽化の著しい水景設備としての機能は排し、駅前オープニングガーデンとしての役割を強化することで、より魅力ある公園としての価値を高めた。本事業は大阪府「都市緑化を活用した猛暑対策事業」の補助金を活用して実施した事業であり、待ち合わせや憩いの場として利用されている。



4-1-3 スポーツ施設

第1運動場人工芝化（第2球技場へ名称変更）

R4年3月に第1運動場を人工芝化してリニューアルオープンした。多目用途タイプの人工芝を敷設することで、運動場を利用可能であった競技はそのまま利用可能なよう改修し、利用件数の多いサッカー・フットサル・ラグビーを中心に利用率の向上を図った。公募時に公開された平成29年度運動場の利用率は昼間51.3%、ナイター40.4%だったが、R5年度には昼間60.7%、ナイター92.3%と大幅な利用率改善を見せた。



プール入退館システムの刷新

館内キャッシュレスシステムに加え、クレジット及び電子マネー決済機能を実装し、キャッシュレス機能を強化した。年々利用者は増加し、R5年度では自販機を除く収入に占めるクレジット及び電子マネー支払シェアは9.5%。券売機及びスクールを除いた、システム清算ベースでは同27.8%に達した。
また、入退館共に対応する多機能端末と、当初案から改善した直線型フロントを採用、受付/清算能力の柔軟なキャパシティ変更（受付能力最大150%）による、繁忙期対応能力の向上を実現している。



4-2 新たな公園施設の設置及び管理運営

4-2-1 収益施設の設置及び管理運営

北西駐車場 コメダ珈琲店

埋設物等の影響により中央口に提案していたベーカーリーカフェから計画を変更し、北西駐車場内にR4年10月19日にオープンさせた。こどもの森を利用する来園者や乗馬苑の利用者を中心に利用されており、安定した稼働状況である。パークセンターが作成しているリーフレット「つるみ〜つ」の配架消費状況や運営所感から、他2つの新設したカフェレストランと比較して高齢者の利用が多い傾向が見られており、地域の高齢者コミュニティ形成に寄与していることや、利用者に対する公園へ誘引するきっかけとしても機能している。



中央第一駐車場 スターバックスコーヒー

R5年1月11日にオープンさせた。公園のメイン出入り口である中央口付近に設置したことで車での来園者だけでなく電車や自転車での来園者にも多く利用されており、ドライブスルーについてもハイシーズンには警備員を配置することで大きな混雑はなく順調に稼働している。



大池前レストハウスリニューアル BOTANICAL HOUSE

花博当時から運営されてきたレストハウス鶴見がR2年11月に閉店し、その後協議を重ねR5年3月25日にオープンさせた。屋号の通りボタニカルをテーマにしたメニューや公園の雰囲気合った設えが好評で、インスタグラムを中心とした広報や季節ごとの新メニューにより若い女性に人気のカフェレストランとして定着しており、ハイシーズンには開業時間中待機列が途切れないような光景も見られる。鶴見緑地は来園者属性としてペット連れが多いため、ペット連れでも飲食ができる席を設けたことも人気に一躍買っている。



表：最終年度（R5年度）テナントレジ通過人数

R5年度	コメダ珈琲	スターバックスコーヒー	BOTANICAL HOUSE
4月	12,654人	22,462人	7,307人
5月	13,158人	21,444人	6,535人
6月	11,178人	17,366人	5,826人
7月	14,209人	19,142人	5,384人
8月	13,832人	17,253人	5,184人

9 月	13,824 人	18,407 人	5,703 人
10 月	14,134 人	19,659 人	8,246 人
11 月	11,987 人	20,692 人	6,675 人
12 月	13,018 人	17,536 人	2,860 人
1 月	12,550 人	19,160 人	3,263 人
2 月	12,031 人	17,059 人	3,912 人
3 月	11,830 人	15,853 人	2,860 人
合計	154,405 人	226,033 人	63,755 人

南駐車場 アルペンアウトドアーズ

公募時に提案していなかったが、コロナ禍に端を発するデイキャンプ等のアウトドアアクティビティ需要の高まりを受け、これから始めたい、日々の新たなライフスタイルの中にアウトドアを取り入れたいといった市民の要望に応えるため、公園利用者にとって身近に感じられるよう、「体験型アウトドアショップ」として R5 年 12 月にオープンさせた。R6 年度以降、キャンプ場・バーベキュー場との連携を図り、来園者の利便性向上及び広大な公園としての一体感を醸成するよう努める。



(咲くやこの花館)

- R2 年の花博 30 周年記念『花博から 30 年のあゆみ＜園芸界、咲くやこの花館＞1990～2020～』と題した企画展を実施し、花博のレガシーである館の認知向上、再認識の PR につなげることができた。企画展の内容は、咲くやこの花館が継承した花博の理念「自然と人間との共生」をテーマに、園芸の進化の歴史として、室内、ペランダで楽しめる新しいガーデニング方法を実際の植物を使って紹介した。ワークショップや植物販売も開催した。来館者からは、花博当時が懐かしい、園芸界の歴史が総まとめでわかり大変勉強になった、現在のガーデニング技法が参考になったなどの声をいただき好評を得た。公園内でも同時期に PARK JAM と題した花博の周年事業を実施していたため、館外の来園者にむけて PR を行った。
- R3、4 年度実施のスパイス展では、「Whole Earth Carry～カレーは地球を救う～」を同時開催。関西の人気スパイスカレー店による出店イベントを開催した
- 夜間開館を実施し、ミュージシャンの日食なつこによる植物園ライブを開催した。新たな客層に広く告知できることで、咲くやこの花館の知名度を上げることができた。
- 植物販売系イベント Sakuya Green Jam を自主企画しネット販売のみのショップや植物愛好家が集まる有名店舗や、個性の強い植物から珍種、ランや食虫植物など全国各地の有名店が週替わりで出店する販売会を行った。また植物界のカリスマ 長谷圭祐氏のスペシャルセミナーなど講習会も開催した。R6 年度で 3 回目となるこのイベントは植物マニアの人気イベントとして定着しつつある。
- NHK 連続テレビ小説「らんまん」の放送に合わせて、牧野富太郎博士に関する企画展を実施した。ドラマの週タイトルになっている植物（キンセイラン、スエコザサ、ヤマトグサなど）の展示を行い牧野博士が命名したなど、牧野博士にゆかりのある「牧野プランツ（植物）」を探すラリーや、牧野博士が世界で有名になるきっかけとなったムジナモの展示、牧野博士関連特設図書コーナーなどを設置、牧

野博士が台湾で見つけた植物「愛玉子（アイギョクシ）」を原料とするゼリー状のデザート「オーギョーチ」の由来などが学べる講座&ワークショップを開催。NHK 主催「植物おもしろっ！牧野富太郎に学ぶ親子で草花観察ワークショップ」船越氏（「らんまん」植物画指導）なども開催し好評を得た。

4-2-2 その他施設の設置及び管理運営

新設遊具設置 つるみっこパーク インクルーシブな遊具広場として計画し、すべてのユーザーに向けたプレイアクティビティがある遊び場を提供。シンボル遊具となるジャイアントドームはアジア発導入の遊具であり、連日の賑わいを見せている。インクルーシブな遊具広場として、また公園活用事業による官民連携で整備した広場として注目されており、他府県からの視察や報道による取材など、今後の公園を取り巻く事業計画の参考にされている施設である。新設した遊具広場には公募により「つるみっこパーク」という愛称が付けられ、後述する愛称決定を記念したイベントも盛況であるなど、地域からも愛される遊具広場として利用されている。	
--	--

ライトアップによる夜間魅力向上 中央通北端にある大池に面するデッキ部及びBOTANICAL HOUSE テラス席からの眺望を向上させ、昼間とは全く違う景観を作り出し、都会の日常の喧騒から解放された空間を演出しました。桜の開花時期にスタートさせたことで、公園側の SNS 等による発信だけでなく来園者による共有も多くなり、新たな景観スポットとして期待している。	
--	--

4-3 新たな賑わいづくり事業

4-3-1 新たな賑わいを創出するイベントの実施

はらぺこ Circus 2022 年度に初開催。TV 局等と連携し、5 月の大型連休に合わせて大芝生を活用した食フェスを開催。飲食店舗の他にステージや飲食スペースを設け、R4 年度は 5 日間で約 110,000 人、R5 年度は約 120,000 人、R6 年度は約 220,000 人が来場しており、年々賑わいが加速している。	
--	--

せせらぎマルシェ

2020 年度にプレ開催を実施し、集客や状況を踏まえて 2021 年度から来園者の増加と来園者への利便性向上のため毎週日曜日に物販やキッチンカーの出店を行うマルシェを開催している。R5 年度は 3 年目となり、地域の方にもイベントが定着してきており、年間トータルレジ通過で約 90,000 人（4 年度+10,000 人）の集客があった。



つるみっこパーク夏祭り

2021 年に新設した遊具広場に対して公募により「つるみっこパーク」という愛称が付けられたことを記念したナイトイベント。ジャイアントドームをイルミネーションで飾りつけしながら、縁日系のキッチンカー出店や花火をする場所がないという地域の要望を受けて手持ち花火イベント等の小規模であったが、1,000 人/日を超える来場者が見られた。



ナイトパーティ・ナイトピクニック

ナイトヨガや星空観賞会、地元音楽教室と連携したコンサートと合わせてキッチンカーを出店し、夜の鶴見緑地を楽しんでもらうイベントとして企画。R4 年には夜間閉鎖している山のエリアの一部をライトアップして臨時開園したナイトウォークや、手持ち花火ができるエリアの確保等、徐々にコンテンツを拡大しており、R5 年度実績としてキッチンカーのレジ通過人数は 4 日間で約 25,000 人となった。



鶴見緑地フェスタ

指定管理施設の園内出店をはじめ、マルシェやスポーツ体験、近隣企業や鶴見消防署と連携した展開を行っている。R3 年度から実施している熱気球係留フライトは非常に好評であったが、風の影響で中止することが多く、R5 年度より早朝 6 時よりフライトを行うことで 2 日間とも運休することなく実施できた上に、予約枠の消化率は 90%以上となった。来園者数は毎年多少変動するものの、2 日間の合計は概ね約 40,000 人/年となっている。



防災 Action 出張牡蠣小屋

東日本大震災 3.11 に合わせて、風評被害に遭った宮城県石巻の牡蠣を使用した復興支援活動と災害への備えを後世へ伝える活動として、復興支援の写真や防災に関するクイズを掲出しながら牡蠣を食べることができるイベントを開催。R3 年度、R4 年度と人気を博し、特に R4 年度は気温や天気もかみ合い 9 日間の開催でレジ通過数約 5,500 人、売上約 19,000 千円となったが、R5 年度は休日に雨天が多かったため 11,644 千円の売上にとどまった。



園内ガイドツアー つるみめぐり

園内の様々な見どころをパークセンタースタッフが案内するガイドツアーを企画。広大な鶴見緑地を様々な観点で楽しんでもらえるようつるモビを使用する回や、花だけでなく樹木に焦点を当てた回など、少人数制ならではの特別感を演出している。また少人数制のためパークセンターと来園者の距離を近づけ、管理側も合わせた公園そのものに愛着を持ってもらうイベントとして継続している。R5 年には長居公園、大阪城公園、てんしばと連携してオータムウォーク 2023 を実施し、大阪市営の公園を合わせて PR するコンテンツとしても機能している。



養蜂体験イベント

ミツバチの生態と鶴見緑地産生はちみつ TSURUMITSU が採れるまでを親子で体験できるイベントを初開催。巣箱の観察からはじまり蜜蝋切り、テイスティング、瓶にはちみつを詰めるまでの作業を行い、貴重な体験として喜ばれている。副産物として収穫されるはちみつは非売品として、園内の様々なイベントなどでの PR に使用しており、鶴見緑地のブランディングに一役買っている。



ローズウィーク・バラのワークショップ

バラの開花時期である春と秋に合わせてローズウィークを設定し、バラの専門家による園内バラ園のガイドツアーや風車内部を活用したミニバラを使った寄せ植え教室等を実施。対応できる人数に限りがあり参加者数は多くないイベントではあるが参加者の満足度は 100%であり花と緑の公園にふさわしいコンテンツとして開催している。



草木染体験

鶴見緑地で採取したタデアイを使用した草木染イベントを開催。参加者の多くは親子だったが、生涯学習としての参加者もあり多世代が参加できるイベントとした。自然の素材から得られる素朴な色合いを用いたオリジナルアイテムが作成でき、参加者の満足度も非常に高いコンテンツである。



4-3-2 新たな賑わいを創出するその他ソフト事業等

広報紙や SNS を使った情報発信

毎月パークセンターから発行している園内広報紙「つるみ〜つ」は毎月 4,000 部を発行しており、園内の各施設だけでなく市内の主要行政施設も含め約 70 か所へ配布している。また、SNS を積極的に活用し、花情報を中心にイベント情報や鶴見緑地で起きた出来事等を発信している。【Instagram（フォロワー11,623 人※R2 年度+8,350 人）、Twitter（フォロワー5,117 人※R2 年度+3,304 人）R6 年 3 月 31 日現在】



園内移動手段の確保（HUBchari）

HUBchari は認定 NPO 法人 Homedoor が行っている野宿生活者の自立支援を目的とした事業で、野宿生活者にバッテリーの充電や自転車の再配置という業務を担ってもらい、対価を支払うことで自立支援につなげる活動である。鶴見緑地内のポート認知度も 4 年間で上昇しており、直近 R5 年度の月間利用件数は平均 850 件/月以上であり、多い月は 1,000 件を超える利用がある。園内の回遊性向上として鶴見緑地内のポート間での利用のほかに、他ポートから鶴見緑地へのアクセスにも利用できることから件数増につながっており、園内の回遊性向上・来園者数増加と合わせて、野宿生活者の自立支援に大きく寄与している事業である。



園内移動手段の確保（つるモビ）

つるモビは歩行補助型のパーソナルモビリティであり、立ち乗りタイプと座り乗りタイプの 2 種類を運用している。R5 年度末時点で 8,000 人がアクティブ会員として登録されている。広大で起伏のある園内をより快適に楽しめる移動手段として多様な方が利用されている。また公園という公共施設内を移動する手段として注目されており、代表企業は某社団法人と連携して国営沖縄記念公園へ貸し出しを行うなど先進事例としての役割も担っている。



アウトドアフィットネス

一般園地や既存施設を活用したフィットネス事業で、パークヨガ、スタジオヨガ、ノルディックウォークを行っている。SNS や園内掲示板、つるみへの記事掲載等により来園者に対する認知を拡大したことで、R5 年度末（2024 年 3 月末）時点では会員登録者数 277 名の事業となっておりプログラムはキャンセル待ちが複数見られる状況である。会員は 30 代～50 代の女性で約 75%を占めており、壮年～中年層の健康活動やコミュニティ形成に寄与している事業である。



パークラン

英国発祥の運動イベントである「パークラン」を開催している。パークランは住友生命が日本へ持ち込んだ取り組みであり、年齢性別を問わず、誰もが気軽に、毎週参加できるランイベントであり、世界各地で 870 万人以上が参加するダイバーシティの先進的な取り組みとして注目されている。鶴見緑地では毎週土曜日に開催しており、1 回あたりの参加者が 100 名を超える規模に発展し、引き続き鶴見緑地における健康と福祉意識の増進に寄与している。



あわい農園

環境事業協会と連携実施しているあわい農園では、鶴見区の子ども食堂等と連携し、子どもと保護者の方を対象に体験学習施設の一部を活用して野菜等の収穫体験を行っている。子ども食堂を利用する子どもたちは相対的に収穫体験のような体験学習に参加できる機会が少ない傾向にあるため、保護者がいなくても参加できる体験学習のスキームを構築して実施している。収穫した作物は収穫体験参加者の持ち帰り、子ども食堂への寄付、鶴見緑地フェスタ内のブースにて子どもたちが自分たちで値付け・販売を行う等により、学習体験だけでなくフードロスゼロへ向けた取り組みにも寄与している。

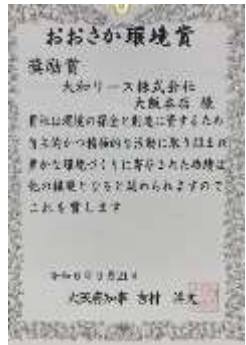


チューリップの球根ほ～る、コスモスと～る

2022 年より、こどもホスピスの活動を PR しながら参加費を全額ホスピスへ寄付する「チューリップの球根ほ～る」「コスモスと～る」を実施している。事前イベントとしてこどもホスピスの利用者家族を参加者とする抜き取りイベントを行い、鶴見緑地の花に触れ合うイベントを開催（参加費無料）。本イベントは一般の来園者や近隣の方を参加者として、大花壇に植えているチューリップの球根やコスモスを抜き取り持ち帰っていただいている。



都市公園等コンクール （一社）日本公園緑地協会会長賞受賞（管理運営部門）	
一般社団法人日本公園緑地協会が主催する、第39回都市公園等コンクールにおいて、花博記念公園鶴見緑地として日本公園緑地協会会長賞を受賞した。指定管理者による公園の再生・魅力向上のための管理運営であるとして、「花と緑の公園」「園産園消」をテーマに、自然からの学びと公園や地域循環の取り組みを行うとともに、地域を巻き込んだプラットフォームを立ち上げ公園活性化の取り組みが持続する仕組みの構築が評価された。	

大阪府 おおさか環境賞 奨励賞受賞	
代表企業は大阪城公園と連携し、廃棄処分されるクスノキ剪定枝から、低温真空抽出法という技術を用いて100%天然由来の生体水アロマを開発している。その生体水を鶴見緑地にてミストシャワーとして活用し、森林浴を体感できる快適な空間づくりや猛暑対策に貢献しており、同市内での都市循環に貢献する仕組みを評価された。	 

乗馬苑自主事業 乗馬スクール事業及び預託馬事業	
都市部では珍しい乗馬苑の立地的ポテンシャルを活かし、指定管理者が保有する馬による乗馬スクールの展開している。2019年は計30頭ほどの管理だったが、2024年3月末時点で計50頭を保有し運営している。馬房を活かして市民の方が所有されている馬の預かり飼育事業も行っており、計50頭のうち17頭ほどが預託馬である。生き物を扱う施設・事業ということもあり、市民の方や会員の方から厳しい意見をいただくことが多いため、適切で安全・安心なサービス提供ができるよう接遇・安全管理を含めたレベルアップを図りたい。	

（咲くやこの花館）

- コロナ禍による入館者数や入館料収入の減少を補うため、来館しなくても植物の情報を得られる、オンラインガイドツアーや教室を開催するなど、オンラインを活用した取り組みを行い、新たな顧客の開拓により再開館後の収益や集客にも繋がった。（約150組）
- 植物に触れてもらう、嗅いでもらうなど五感にうったえるハンズオン展示を実施した
- 平日の高齢者や園芸クラブ、旅行団体などの顧客ニーズに応え、団体向け有料予約制フラワーツアーを実施した。
- オンラインショップを通じてのグッズ販売を行い、収益につなげた。
- 館内開催のワークショップの受付を一部、電話からオンライン申込みに変更し、利用者から便利になったと高評価を得た。

- 夜間に開花するフニーバオバブの開花に合わせ、夜間臨時開館を行い、夜に開花する植物を紹介するツアーなども行った。
- 毎年、11月に入館料を無料とする取り組みである「関西文化の日（入館無料）」を2日間実施している。

4-4 事業計画の達成度

※別添 魅力向上事業の提案実施状況 を参照

事業開始年度である2020年度、翌2021年度は新型コロナウイルスのまん延により、利便施設の設置やイベント関係、地域連携等、実施できないものが多くあったが2022年以降順調に進捗させ概ね実現させることができた。

ハード面においては、一部事業開始後の調査を行うまで予見できなかった施設の老朽化や園内設備の状況等により変更・再協議となったものがある。

例えば中央口付近に提案していたベーカリーカフェは地中の配線・配管が想定よりも低深度に敷設されていたため変更となり、また中央第一駐車場のスターバックスコーヒーは施工時に大量の地中埋設物が発覚したため投資内容を見直しが必要となった。事業全体への影響は少なからずあったものの指定管理者として事業の進捗に努め、コロナ禍の影響を受けながらも可能な限り早期実施につなげた。

（咲くやこの花館）

R2年度から3年度にかけては新型コロナウイルスの蔓延により、緊急事態宣言による度重なる休館や感染対策など厳しい管理運営の中、ハード事業・ソフト事業それぞれ一定達成することができた。

ハード面では、レストラン改修、咲くやこの花館前池のテーブルベンチ整備などコロナ禍の影響を受けながらも比較的早期に実施することができた。また、「少ない労力で美しいガーデン」を目指すボランティアリーダー養成講座や天王寺動物園の協力により有機物の有効活用も兼ねた取り組みである「エルフガーデンプロジェクト」は、風に揺らぐ宿根草やグラスの美しいガーデンは新たな人気スポットになった。入館料改正を条件として提案していた新規展示ゾーンについては、条例改正が大きなハードルとなり実現に至っておらず、近年の物価上昇等も考慮し今後継続して検討していきたい。

ソフト面ではコロナ対策として参加者や受講生を予定の半分に人数を制限し、回数を増やすことで合計参加者数を維持するよう努めた。コロナ禍による入館者数や入館料収入の減少を補うため、スパイス展などの新規イベントも随時実施した。コロナがきっかけでオンライン（講座や動画PRなど）を活用した取り組みなどの新たな展開も収穫となった。

広報面では、情報発信の強化として、積極的にプレスリリースを行い多数メディアに取り上げられた。リまた、SNSの発信によりイメージ、認知度を向上させた。その他として、他施設はもとより地域への広報物配布や、大阪市内・門真市・守口市の全小学校への広報物配布や大阪メトロの全駅へのポスター掲出などで広報を展開した。

4－5 収益の再投資

鶴見新山の山頂リニューアルや大池ライトアップ、大花壇の景観向上などのハード的な整備と、除草回数
の追加やつるモビの運用などソフト的な追加により、来園者サービスの向上に資する公園の魅力向上に努め
た。(4－1－2、4－2－2 等参照)

今後の再投資の用途を予防修繕に使用するのか来園者サービス・魅力向上に使用するのか、大阪市が定め
る長期修繕計画と合わせて検討していきたい。

5 管理経費の縮減

5-1 収支の健全性

別添 収支一覧表 を参照

○事業全体について

2020 年から拡大していった新型コロナウイルスにより、提案していた収益施設の整備に甚大な遅れが生じた事。また、3 密を避ける施設運営を余儀なくされた結果、事業収支に直結し計画通りの収支にはならなかった。また、エネルギーコストに限らず円安等の影響により資材・飼料コストも大幅に上昇し収支計画に影響を与えた。

悪いことばかりではなく、新型コロナウイルスの影響下においては「公園等の屋外空間は外出可能」といった風潮もあったため、短期的ではなるが普段公園にお越しにならない方々も数多く来園された。連日の報道等の影響により、生活習慣の変化と合わせて公園の利用のされ方についても変化が受け入れられやすい流れができたことで、収益施設の設置やイベントの拡充に対する地域住民の意見も非常に好意的であり、出だしは遅れたものの着手後の調整は比較的スムーズに進んだため計画の後ろ倒しは最小限に抑えられたと考えている。

【主な事項】

○一般園地

- ・新型コロナウイルスの影響（R2～R4）により、魅力向上事業他自主事業展開の着手・展開が遅れたことや、3 密を避ける施設運営により、当初 2 年間は計画を下回る収益となった。
- ・エネルギーコスト高騰の影響により、主に R4、R5 の電気料金が計画地を大きく上回った。
- ・アルペンアウトドアーズの施工に際し、汚染土の処分費が会計上事業費とみなされず R5 単年度計上となった。
- ・最低賃金上昇により、清掃等を委託しているシルバー人材センターのコストが増大した。

○咲くやこの花館

【入館料収入】

- ・R2～R4 はコロナの影響により団体人数が減少した。
- ・大阪市の大規模修繕や、記録的な厳しい暑さ（35 度以上の猛暑日）がつづき夏場の入館者が減少するなどの影響があった
- ・6 月の増は新規イベントとして「きのこ大祭」を誘致し 6 月の入館者数増となった。
- ・9 月のグリーンジャム（植物販売会）において出店者数を増やし拡充した結果入館者増となった。
- ・「こけ展」「きのこマーケット」「カカオとコーヒー展」等のバリューアップと新規イベント企画による入館料収入全体の底上げを図り、冬季についても目標を上回る来館者があった。

【事業収入】

- ・感染予防対策を講じながら回数を増やし、販売にも力を入れるなど工夫を行うことで目標値を上回ることができた。
- ・企画展にまつわる珍しい植物やグッズ、キッチンカーなどの出店手数料収入が昨年度より上回った。

○鶴見緑地パークゴルフ場

- ・屋外施設のため、コロナの影響は比較的少なかったと言えるが、記録的猛暑や雨天続き等天候不順の影響を大きく受けることとなった。
- ・2023 年度来場者は前年比 89.9%に留まるも、年間利用者目標 29500 人は達成した。
- ・2023 年度業務代行料を除く売上合計は 1605 万円（昨対 89.8%）。入場者数にほぼ比例する

○鶴見緑地球技場他 4 施設

【鶴見緑地プール】

収入 R4 年度までは利用制限、工事休館などで苦戦したが、R05 年度には年間を通じ全面稼働となり利用料・自主事業とも大幅に目標を上回った。

支出 R4 年度までは、水光熱費の高騰があったものの、休館期間も多く結果的に支出は抑制された。R5 年度には全面稼働に伴い、水光熱費に加えレストラン委託費増加などがあった一方、その他の部分で支出減に努め一部を吸収した。

【鶴見スポーツセンター】

収入 期間を通じ、全休館となった期間は多くなかったものの、キャンセル、人数制限、工事などの影響が続き、また、マラソンイベントの不振もあり、苦戦の 4 年間となった。

支出 特に期の後半、水光熱(特に電気)の高騰が大きく原価増に影響した一方、教室費用が減少した。

【鶴見緑地球技場・運動場・庭球場】

収入 R2 年～3 年にかけては、コロナ禍による休場や緊急事態宣言による時短営業・利用自粛の影響もあり、収入は減少した。R4 年にはコロナ禍の影響も薄くなったことで利用も回復傾向となり、特に第 2 球技場(第 1 運動場)については、土のグラウンドが人工芝化され、利用料と稼働が増えた事で収入が増えた。R5 年には球技場、第 2 球技場ともに正常な運営状況下にて利用希望も増え、それに伴い収入も増えた。庭球場については、教室生や利用者減による教室事業と利用料の減少が響き、減収となった。

支出 R2 年～3 年にかけては、収入減の理由と同様により支出を抑制することに努めた。R4 年からは利用も回復傾向となり、水光熱費の高騰も影響したが、計画値内にて概ね支出も抑制することができた。R5 年では引き続き水光熱費高騰の影響があり、人件費や事務費、管理費の抑制に努めたが、計画を上回る支出となった。

○陳列館ホール他 2 施設

当初の緊急事態宣言以降、利用自粛が年間を通して続いたため、利用率・売上ともに減少となった。R4 年以降は回復基調にあり、施設によってはコロナ前を上回る月もでてきている。

○鶴見緑地馬場

R2 年度及び R3 年度は 4 月～6 月に約 2 か月程度、緊急事態宣言により休業した。休業とコロナ禍の影響で計画の会員数よりも少ない会員数でのスタートとなりその差異が現在も影響している。さらに入会者数も計画より少なかったため目標会員数の差異が開き、会費収入の減収、施設使用料の減収となった。引き続き感染防止対策から当初計画だった大規模集客の競技会および講習会、イベントの中止により利用料金収入も減収となった。

支出については人件費、光熱水費、飼料費をはじめとする各費用の値上げによる増加があったものの、会員数減少に伴う必要経費の減少と自社による大幅な経費削減対策により低減を図った。

○一般園地

- ・園路灯の間引き点灯や施設内の一部消灯、冷暖房の温度設定（28℃）等によるエネルギー使用量の削減
- ・簡易な修繕については直営にて実施
- ・園地維持管理で発生した落ち葉の一部を一般来園者進入禁止エリアとして設定している山のエリアの一部や、土がむき出しになっている雑草地等に将来的な腐葉土として散布することにより廃棄物としての排出量を削減
- ・園内の来園者の目に触れにくい場所は防草シートを敷き込み、除草に係るランニングコストを削減

○咲くやこの花館

- ・照明の一部消灯や事務室内の冷暖房の温度設定（28℃）等によるエネルギー使用量の削減
- ・植物展示室及び事務室の照明LED化による消費電力の削減
- ・簡易な修繕については直営にて実施
- ・物価の高騰もあったが、まとめて購入するなど工夫し、昨年度より支出を抑えた
- ・修繕や購入等で外注する際には、当財団の規定に則り、入札や比較見積を実施
- ・オンライン実施の為の環境整備（カメラ、PC、配信機器、Wi-Fi 整備）を行った。
- ・助成金（文化施設の感染拡大予防、活動支援環境整備事業補助金）申請による費用を捻出した。
- ・動画配信の為の環境整備（カメラ、PC、配信機器）文化庁助成金へ申請し費用を捻出した
- ・WS、教室予約にオンライン予約の導入やアンケート（WS）→Google QR コード化を行い、お客様の利便性と施設側の効率化を図った

○鶴見緑地パークゴルフ場

- ・回数券、スコアカード、優待券など運営販促用印刷物の発注先、発注頻度の見直し
- ・高木剪定等特殊業務についての内容精査と適正化
- ・簡易な修繕業務の内製化
- ・事務所内の空調制限や、こまめな消灯等による節電

○鶴見緑地球技場他4施設

- （光熱水費の削減）
- 【全施設共通】
- ・夜間の周囲灯及び館内常夜灯の適宜消灯
 - ・事務所や休憩室及び会議室のこまめな消灯
 - ・事務所内の空調利用制限
- 【鶴見緑地プール】
- ・シャワー等水道関連で節水システムの採用による水道代削減
 - ・利用者在館状況を共有し不要な動力停止
- （事務消耗品の縮減）
- 【全施設共通】
- ・紙資料から電子資料への移行推進
 - ・裏紙の再利用継続
- （自主事業経費の削減）
- 【全施設共通】
- ・教室事業チラシは、自前で作成継続実施
 - ・自社作成による施設ホームページを活用し募集
- （修繕費の削減）
- 【全施設共通】
- ・簡易な修繕は、部品調達し内製化

○陳列館ホール他 2 施設

- ・ 清掃業務委託料を見直し減額
- ・ 非常勤職員の勤務時間調整を実施し、適材適所での運営を実施した。
- ・ コピー時に裏紙使用し、リサイクルを心掛けた。
- ・ 常に節電を心掛け、使用していない箇所の電気や空調を消した。

○鶴見緑地馬場

- ・ 不要な照明の消灯およびエアコンの温度設定による節電を実施。
- ・ 簡易な修繕は直営にて実施。
- ・ 社内書類を全て電子化し用紙などの消耗品消費を削減。
- ・ 馬糞の処理を近隣農家の方へ提供し、肥料として利用していただいている。また公園内植物の肥料としても提供し、処理費用を削減。
- ・ 馬の運動、調教等を日照時に行うことで、不要な馬場照明電力を削減。
- ・ 乗馬苑利用者や会員向けの情報を SNS やスマートフォンアプリを利用して発信。チラシなどの資源削減や郵便送料などのコストを削減。
- ・ 事務所照明、厩舎照明を LED 照明に一部変更し、電気代を削減
- ・ エアコンを新型に交換し電気代コストを低減
- ・ 不要となったコピー用紙の裏紙をメモとして再利用している